

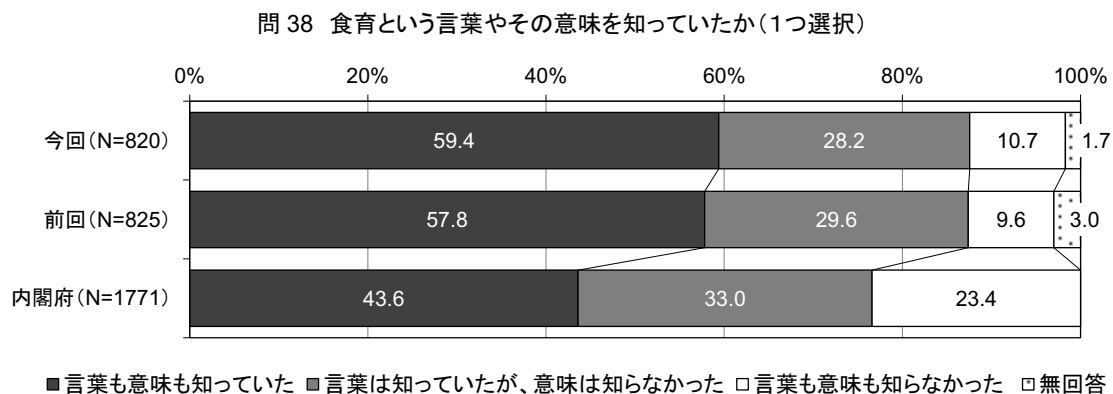
2-16 食育について

問 38 「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(1つ選択)

「食育の認知度」(「言葉も意味も知っていた」59.4%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」28.2%の合計値)は、約9割(87.6%)となっている。

前回(87.4%)と比較すると、大きな変化は見られない。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、「食育の認知度」は内閣府(76.6%)より11.0ポイント高くなっている。

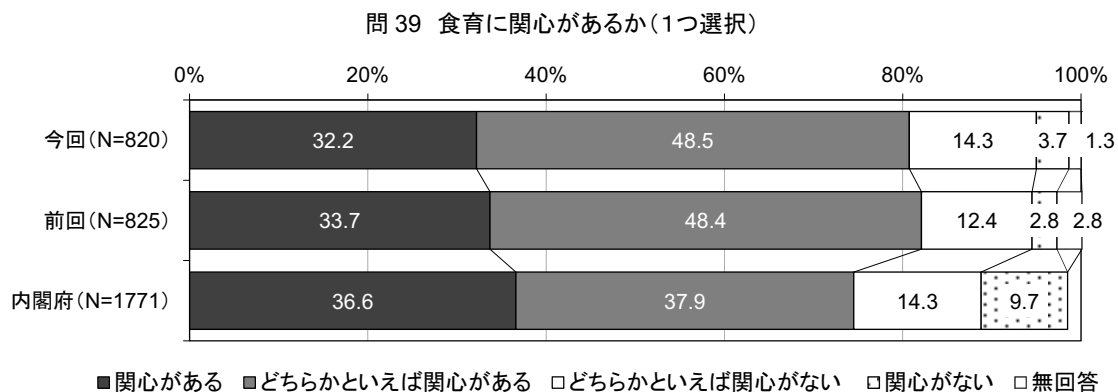


問 39 「食育」に関心がありますか。(1つ選択)

「食育の関心度」(「関心がある」32.2%、「どちらかといえば関心がある」48.5%の合計値)は、約8割(80.7%)となっている。

前回(82.1%)と比較すると、大きな変化は見られない。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、「食育の関心度」は、内閣府(74.5%)より6.2ポイント高くなっている。



※内閣府調査では上記以外に「わからない」(1.4%)

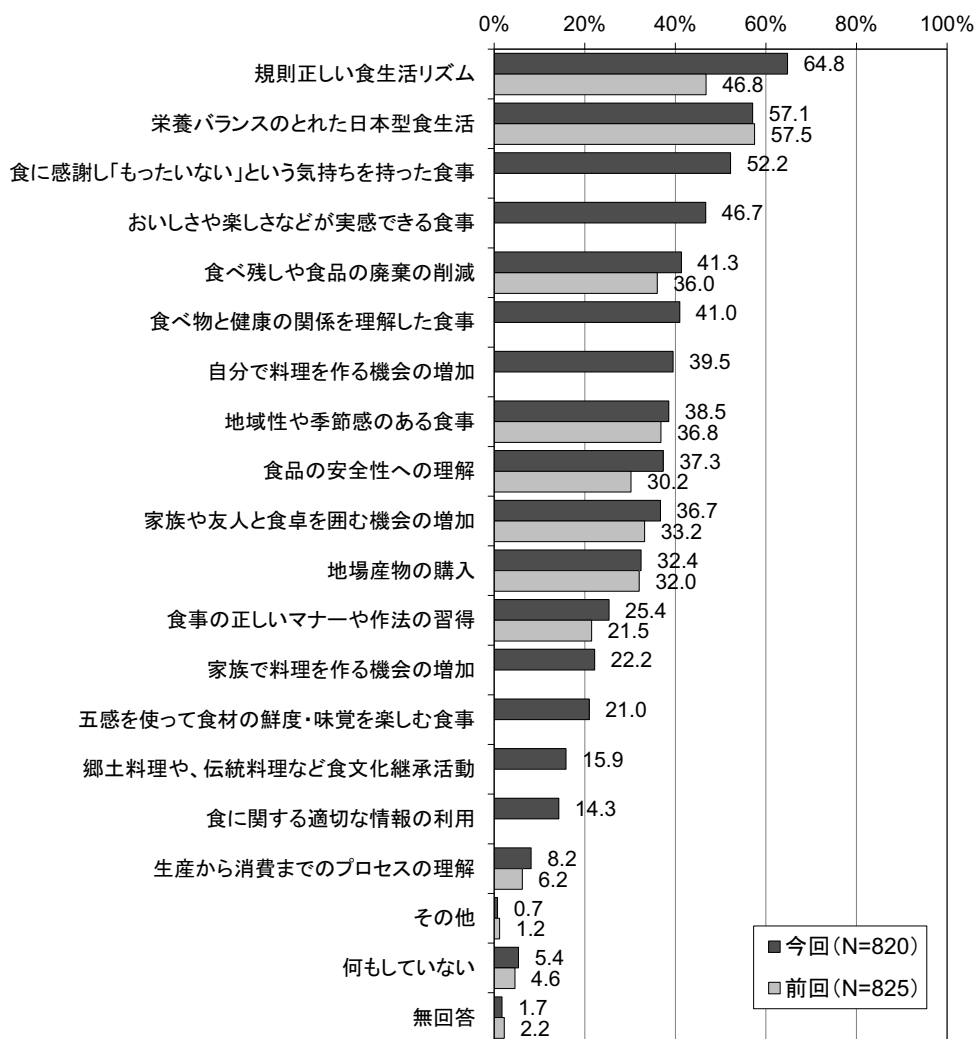
問 40 食育について、どのようなことを実践していますか。(すべて選択)

「規則正しい食生活リズム」(64.8%)が最も高く、次いで「栄養バランスのとれた日本型食生活」(57.1%)、「食に感謝し『もったいない』という気持ちを持った食事」(52.2%)は、半数以上が実践している。

前回と同項目について比較すると、「規則正しい食生活リズム」(前回 46.8%)が 18.0 ポイント高くなっている。また、「食べ残しや食品の廃棄の削減」、「食品の安全性への理解」も比較的高くなっている。

一方、最も低い「生産から消費までのプロセスの理解」(8.2%)は、前回(6.2%)も同様に低くなっている。

問 40 食育について実践していること(すべて選択)



※「栄養バランスのとれた日本型食生活」は、前回「栄養バランスのとれた食事の実践」

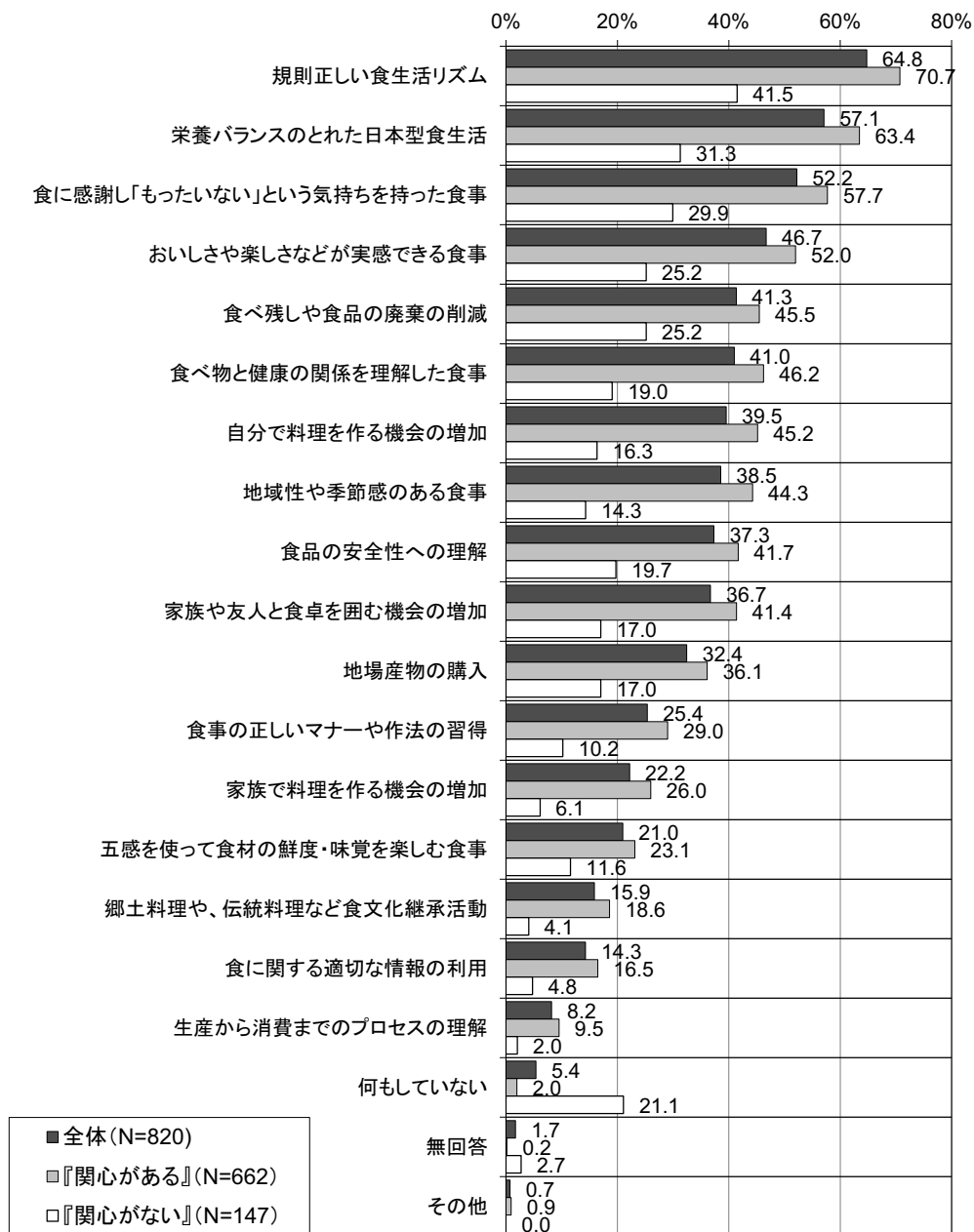
(その他の主な内訳)

- ・家庭菜園
- ・食べる分を作る。購入した期間内で消費する
- ・添加物をなるべく避ける。子ども達にも意識させる
- ・節約・質素・儉約で手に入るものを食べる

食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、食育に「関心がある」は、「何もしていない」を除くすべての項目において「関心がない」より高くなっている。

また、「何もしていない」は「関心がある」が 2.0%とわずかであるのに対し、「関心がない」（21.1%）は 2 割以上となっており、食育への関心度が高いほど、食育に関する実践の割合が高い傾向がうかがえる。

問 40 食育について実践していること・食育への関心度(問 39)



※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

2-17 健全な食生活の実践のための指針等について

問 41 日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。
(3つまで選択)

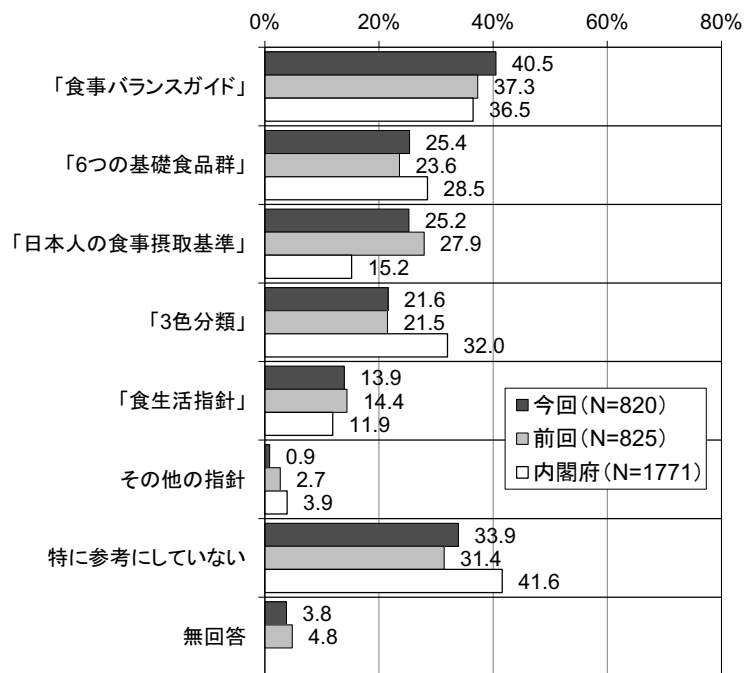
何らかの指針を参考にしていると回答した人「参考にしているものがある」(62.3%)は、6割以上となっており、前回(63.8%)と比較すると、大きな変化は見られない。

しかし、「特に参考にしていない」(33.9%)も前回(31.4%)と比較すると、3割以上で大きな変化は見られず、指針等の活用は十分でないことがうかがえる。

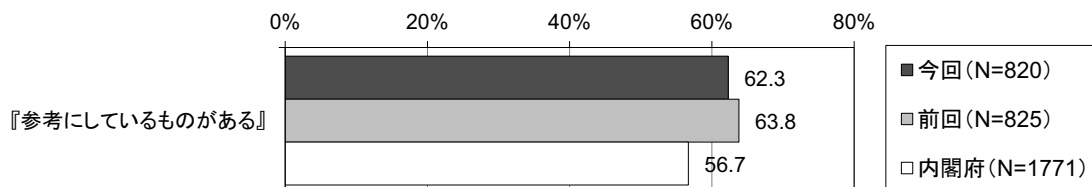
内閣府調査(平成25年)と比較すると、「参考にしているものがある」は、内閣府(56.7%)より5.6ポイント高く、「特に参考にしていない」は、内閣府(41.6%)より7.7ポイント低くなっている。

参考にしている指針としては、「食事バランスガイド」(40.5%)が最も高く、内閣府調査(平成25年)と比較すると、「食事バランスガイド」、「日本人の食事摂取基準」は、内閣府より高く、「6つの基礎食品群」、「3色分類」、「その他の指針」は低くなっている。

問 41 健全な食生活を実践するために参考にしている指針等(3つまで選択)



問 41 参考にしている指針等の有無



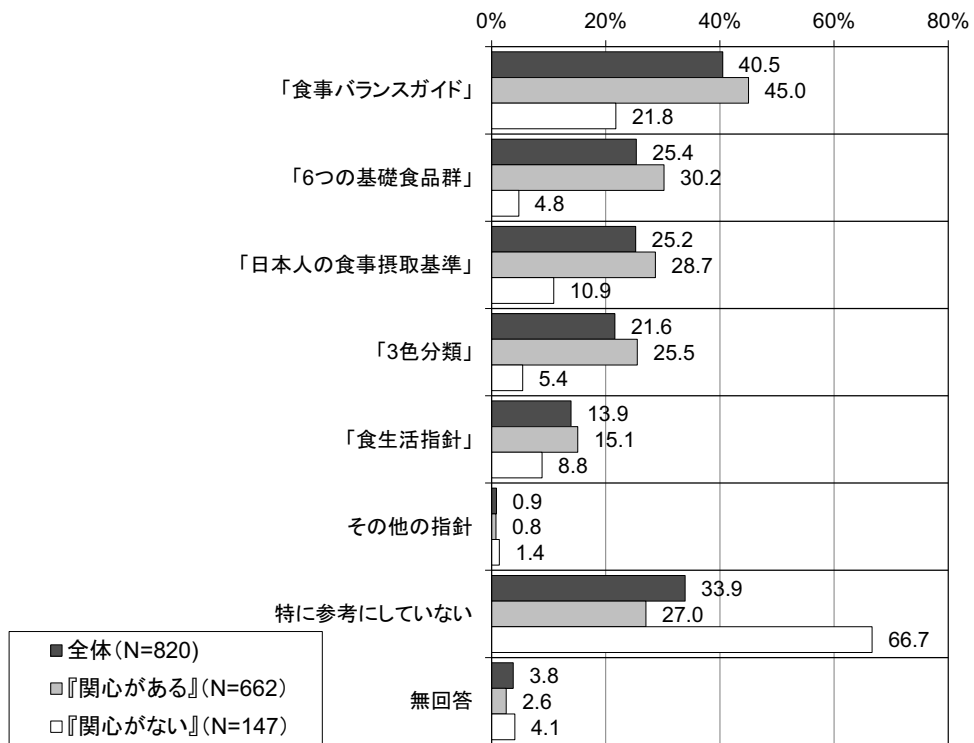
(その他の指針の主な内訳)

- ・お母さんまかせ
- ・直感と感性で食べる

食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、食育に「関心がある」は、「特に参考にしていない」を除くすべての項目において「関心がない」より高くなっている。

また、「特に参考にしていない」は、「関心がある」（27.0%）が約 3 割であるのに対し、「関心がない」（66.7%）は 6 割以上となっており、食育への関心度が高いほど、健全な食生活を実践するために、何らかの指針等を参考にする割合が高い傾向がうかがえる。

問 41 健全な食生活を実践するために参考になっている指針等・食育への関心度（問 39）



※食育への関心度「関心がある」は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、「関心がない」は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

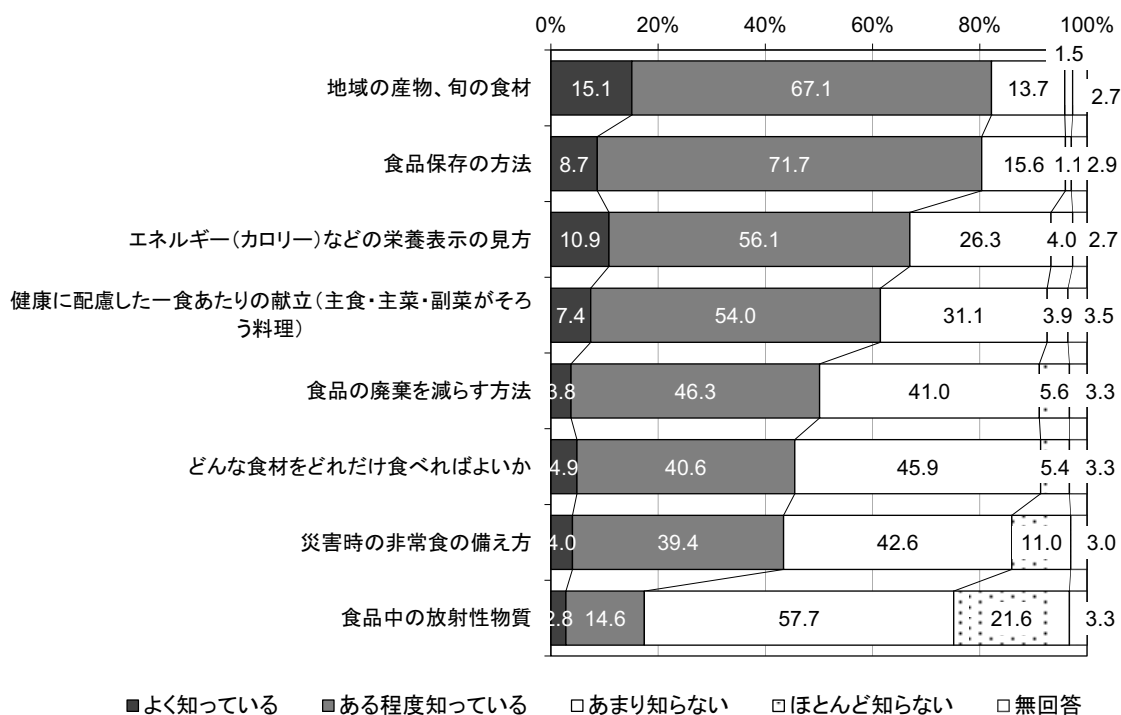
2-18 食に関する知識・行動について

問 42 食に関する以下の項目について、それぞれどのくらい知っていますか。
(それぞれ1つ選択)

食に関する項目の認知度（「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計値）は、「地域の産物、旬の食材」（82.2%）が最も高く、次いで高い「食品保存の方法」（80.4%）とともに8割以上となっている。

一方、食に関する項目について知らない（「ほとんど知らない」、「あまり知らない」の合計値）を見ると、「食品中の放射性物質」（79.3%）が約8割で最も高く、次いで「災害時の非常食の備え方」（53.6%）、「どんな食材をどれだけ食べればよいか」（51.3%）の2項目が5割以上となっている。

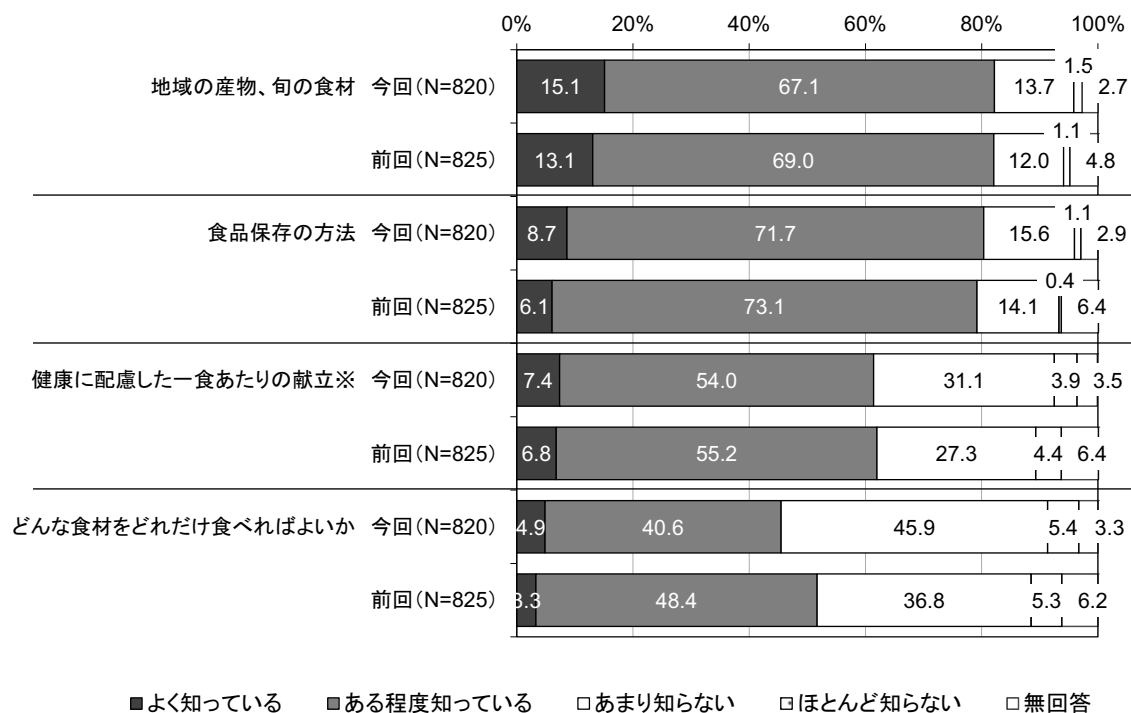
問 42 食に関する各項目についてどのくらい知っているか(それぞれ1つ選択)



(N=820)

前回と同項目（類似項目）について比較すると、認知度（「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計値）に大きな変化は見られないが、その中で「どんな食材をどれだけ食べればよいか」が低くなっている。

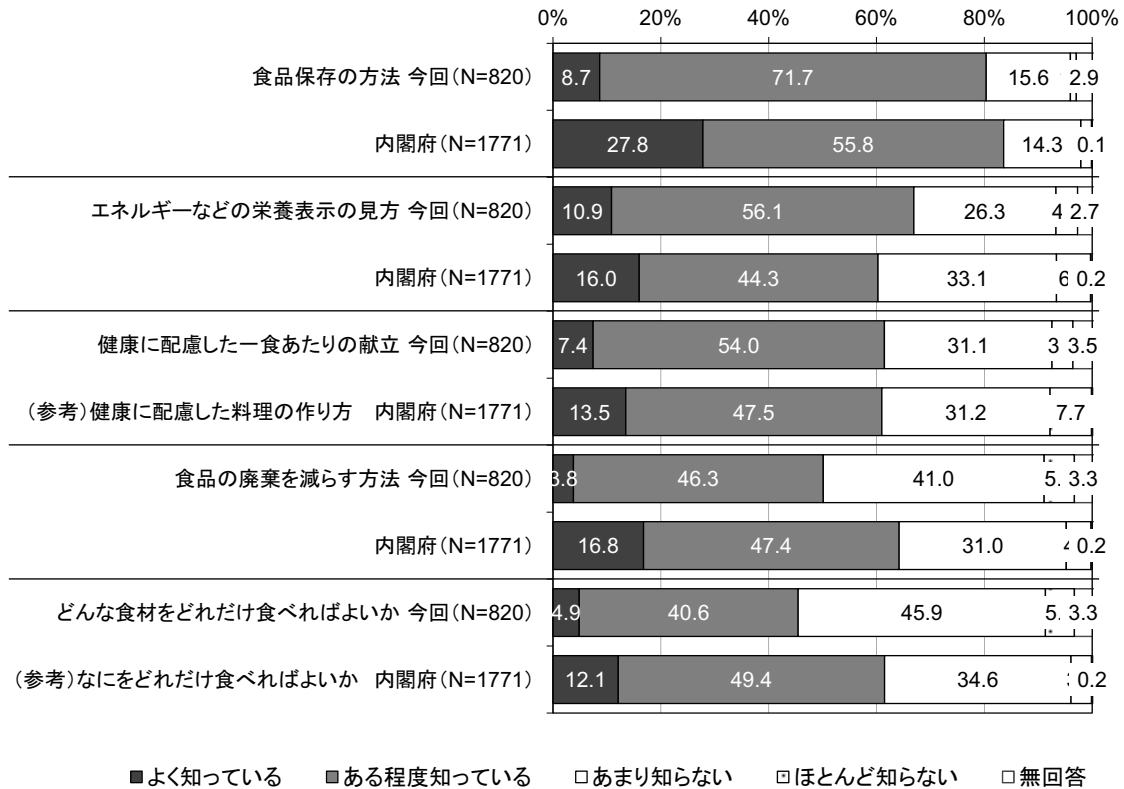
問 42 食に関する各項目についてどのくらい知っているか(前回との比較)



※「健康に配慮した一食あたりの献立(主食・主菜・副菜がそろった料理)」は、前回「調理の方法(主食・主菜・副菜がそろった料理の作り方)」

内閣府調査（平成 25 年）と同項目（類似項目）の認知度（「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計値）について比較すると、「どんな食材をどれだけ食べればよいか」、「食品の廃棄を減らす方法」、「食品保存の方法」は低くなっているが、「エネルギーなどの栄養表示の見方」は高くなっている。

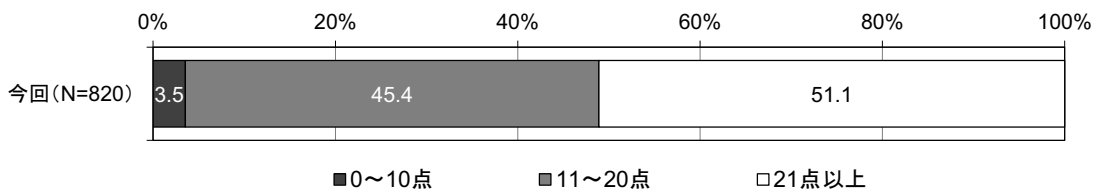
問 42 食に関する各項目についてどのくらい知っているか(内閣府との比較)



食に関する各項目の認知度を点数化※し、その合計点区分ごとの構成比を見てみると、32点満点のうち「21点以上」(51.1%)が最も高く、約半数となっている。次いで、「11～20点」が45.4%であり、「10点以下」は3.5%で低くなっている。

※《点数化の方法》
 「よく知っている」を4点、「ある程度知っている」を3点、「あまり知らない」を2点、「ほとんど知らない」を1点として、各項目の点数を算出し、全8項目の合計点(最高点32点)とし、さらにそれを10点区切りで仕分けした。合計点が高いほど、認知度が高いことを示す。

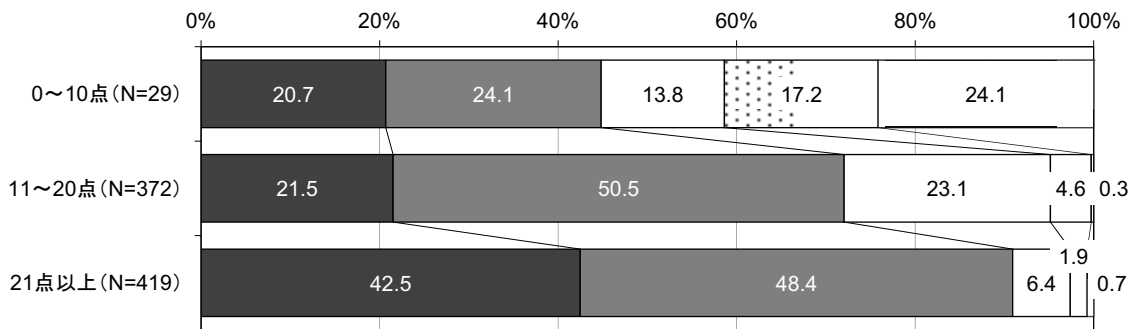
問 42 食に関する各項目についてどのくらい知っているか 認知合計点区分



合計点の区分ごとに食育への関心度※(問39)を見てみると、「21点以上」は「関心がある」(90.9%)が約9割で最も高くなっている。

また、「0～10点」では、「関心がある」が5割未満(44.8%)、「11～20点」では7割以上(72.0%)となっており、食育への関心度が高い方が、食に関する項目の認知度も高い傾向がうかがえる。

問 42 食に関する各項目についてどのくらい知っているか 認知合計点・食育への関心度(問39)



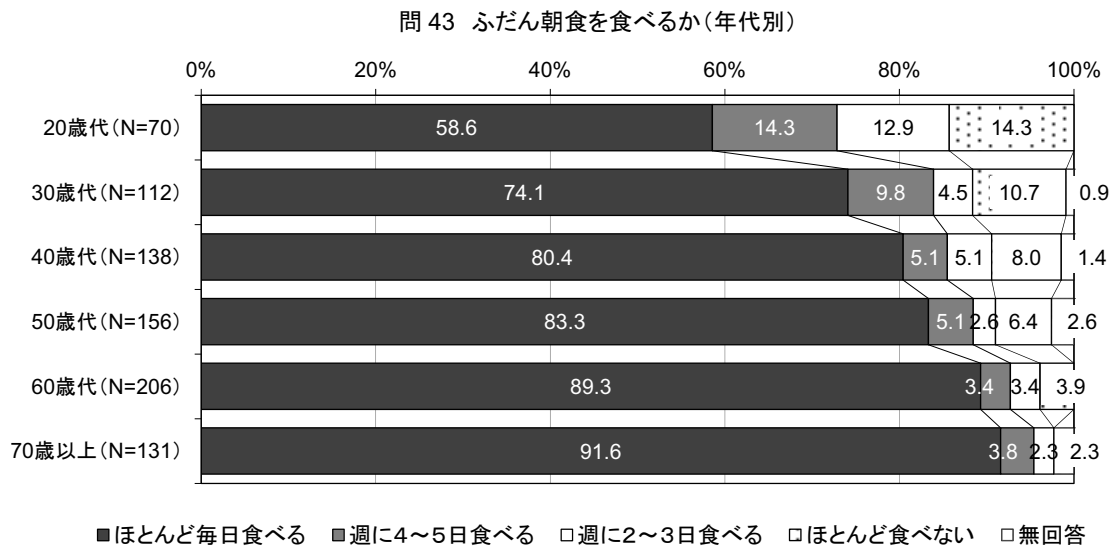
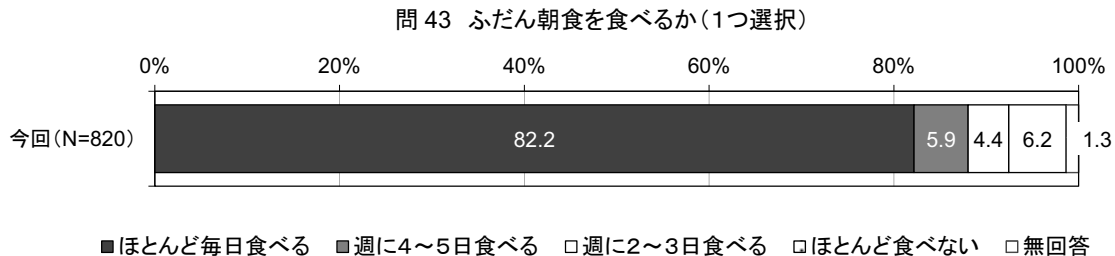
■関心がある ■どちらかといえば関心がある □どちらかといえば関心がない □関心がない □無回答

※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

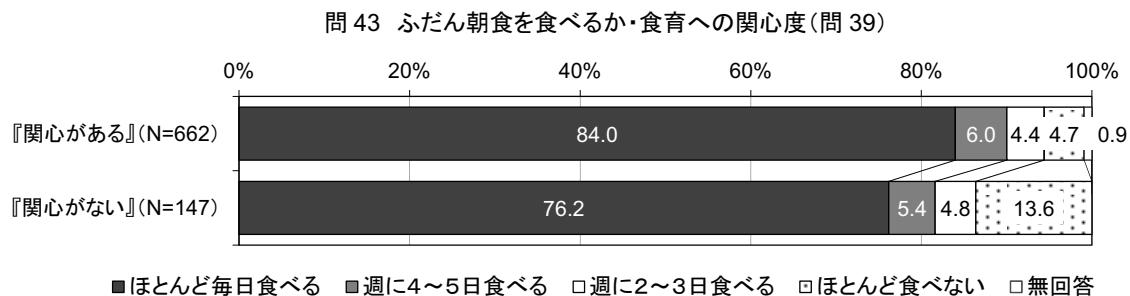
問 43 ふだん、朝食を食べますか。(1つ選択)

朝食を「ほとんど毎日食べる」(82.2%)は、8割以上となっている。

年代別では、「ほとんど毎日食べる」は、20歳代(58.6%)が約6割で最も低く、これを除く約4割(41.5%)が、朝食を食べないことがある状況となっている。



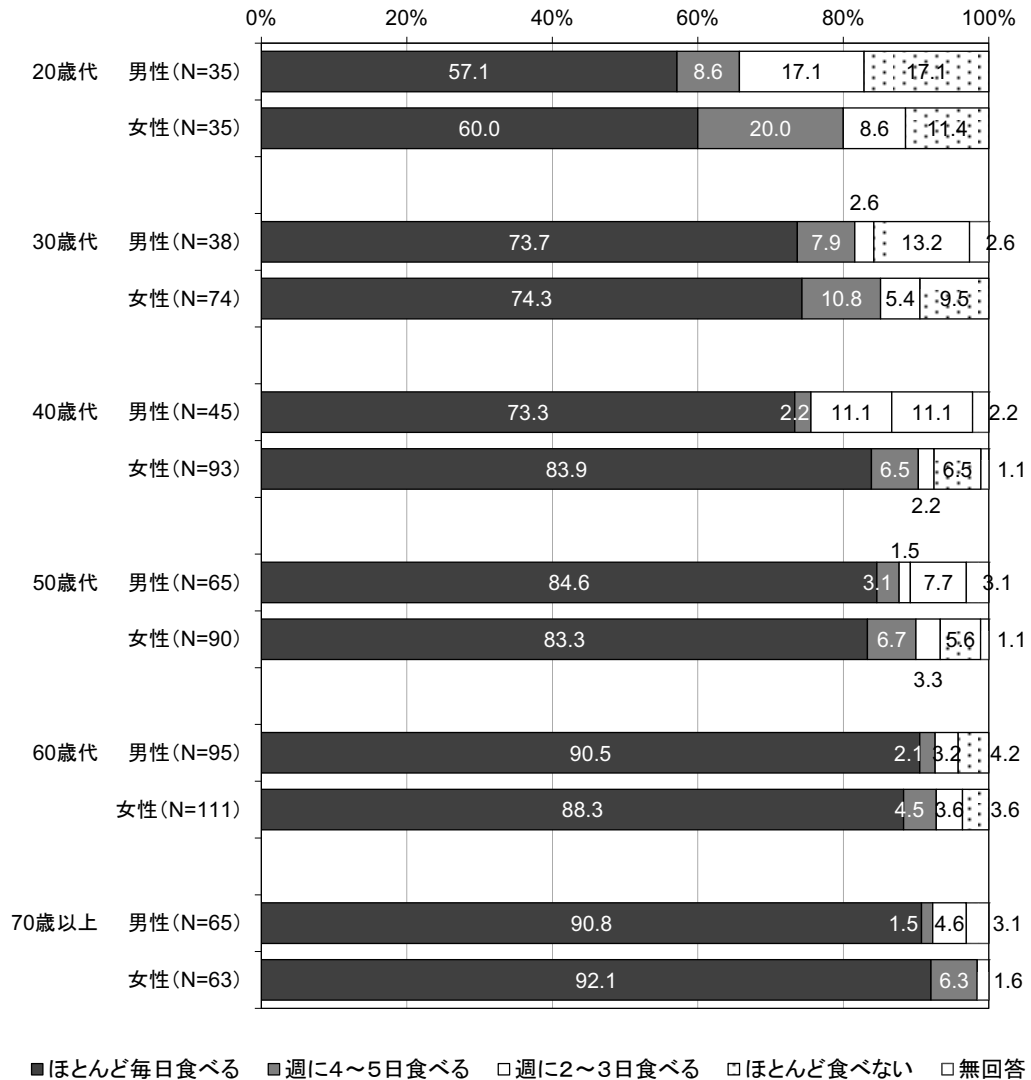
食育への関心度※(問 39)と合わせて見てみると、「ほとんど毎日食べる」は「関心がある」(84.0%)が「関心がない」(76.2%)より高くなっている。また、「ほとんど食べない」は「関心がある」(4.7%)より「関心がない」(13.6%)が高く、食育への関心度が朝食を食べる頻度を高めていることがうかがえる。



※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

性別・年代別では、「ほとんど毎日食べる」は、20歳代の男性が6割未満（57.1%）で最も低く、これを除く約4割（42.8%）が、朝食を食べないことがある状況となっている。

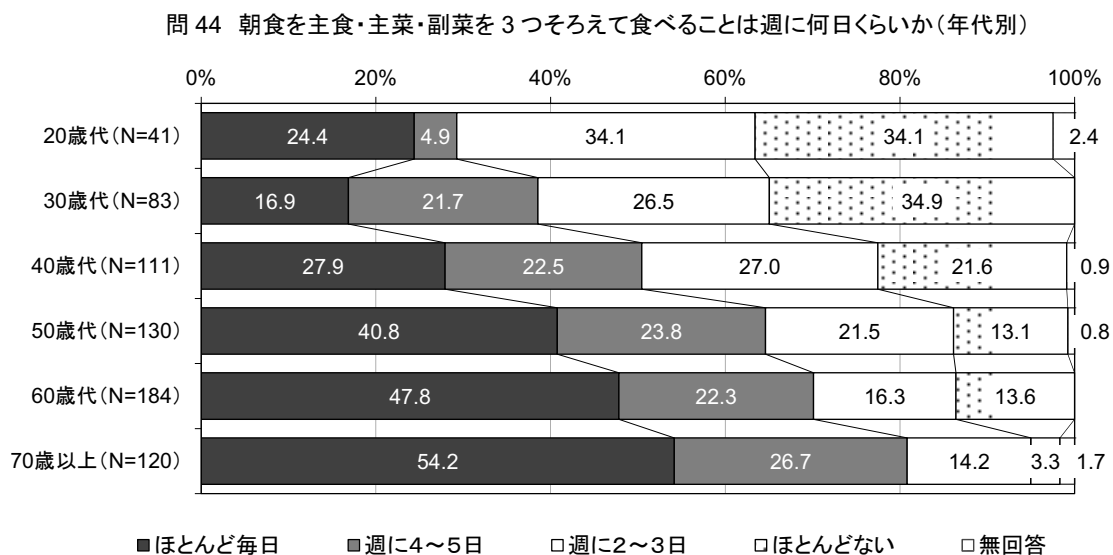
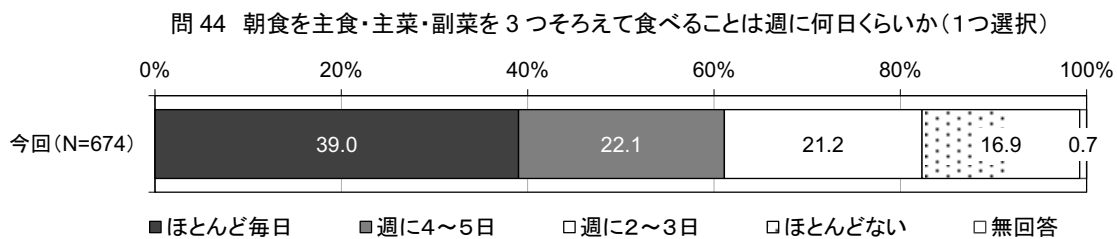
問 43 ふだん朝食を食べるか(性別・年代別)



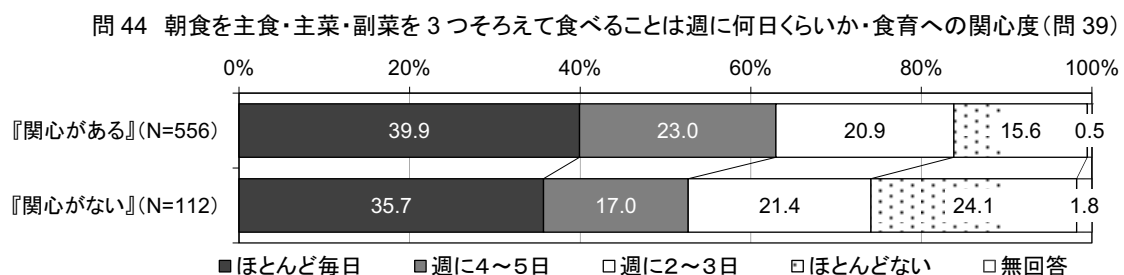
問 44 問 43 で朝食を「ほとんど毎日食べる」とした方にうかがいます。そのうち、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることは週に何日くらいですか。(1つ選択)

「ほとんど毎日」(39.0%)が最も高くなっている。

年代別では、「ほとんど毎日」は30歳代(16.9%)が最も低く、次いで20歳代(24.4%)が低くなっている。また、高い年代ほど「ほとんど毎日」が高くなっているが、最も高い70歳以上(54.2%)でも約半数となっている。



食育への関心度※(問 39)と合わせて見てみると、「ほとんど毎日」は関心度による大きな差は見られない。しかし、「ほとんどない」は「関心がある」(15.6%)より「関心がない」(24.1%)で高く、食育への関心度が朝食で主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度を高めていることがうかがえる。



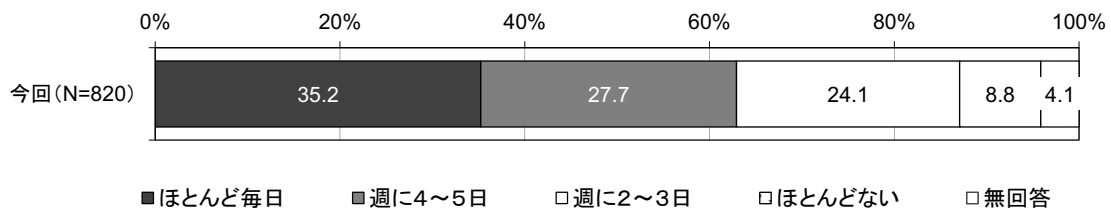
※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 45 1日の食事の中で、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日くらいですか。(1つ選択)

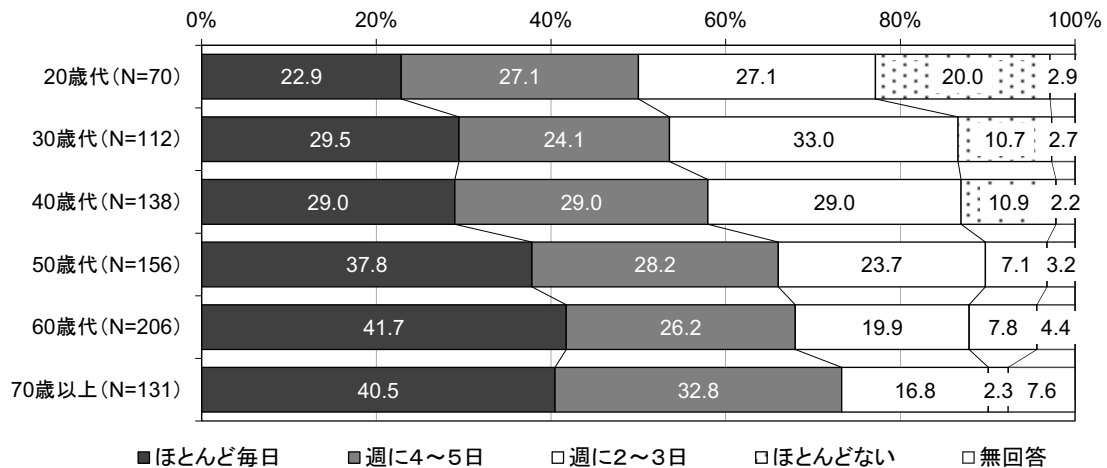
「ほとんど毎日」(35.2%)が最も高くなっている。

年代別では、「ほとんど毎日」は20歳代(22.9%)が最も低く、次いで、30歳代(29.5%)が低くなっている。また、高い年代ほど「ほとんど毎日食べる」が高くなっているが、最も高い60歳代(41.7%)でも約4割となっている。

問 45 主食・主菜・副菜を3つそろえる食事が1日2回以上あるのは、週に何日くらいか(1つ選択)

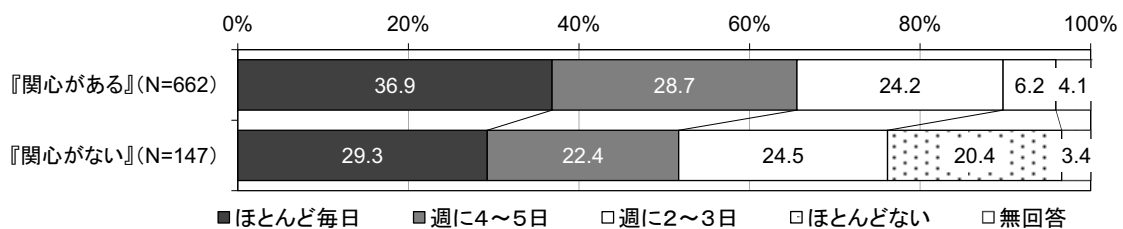


問 45 主食・主菜・副菜を3つそろえる食事が1日2回以上あるのは、週に何日くらいか(年代別)



食育への関心度※(問 39)と合わせて見てみると、「ほとんど毎日」は「関心がある」(36.9%)が「関心がない」(29.3%)より高くなっている。また、「ほとんどない」は「関心がある」(6.2%)が「関心がない」(20.4%)より低く、食育への関心度が1日2回以上の食事で主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度を高めていることがうかがえる。

問 45 主食・主菜・副菜を3つそろえる食事が1日2回以上あるのは、週に何日くらいか・食育への関心度(問 39)

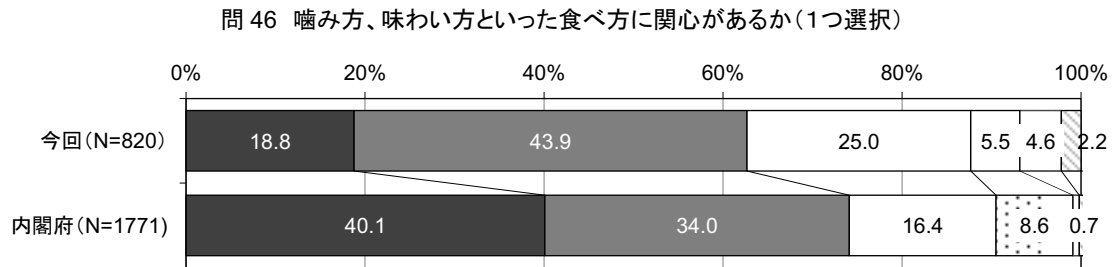


※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 46 噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。(1つ選択)

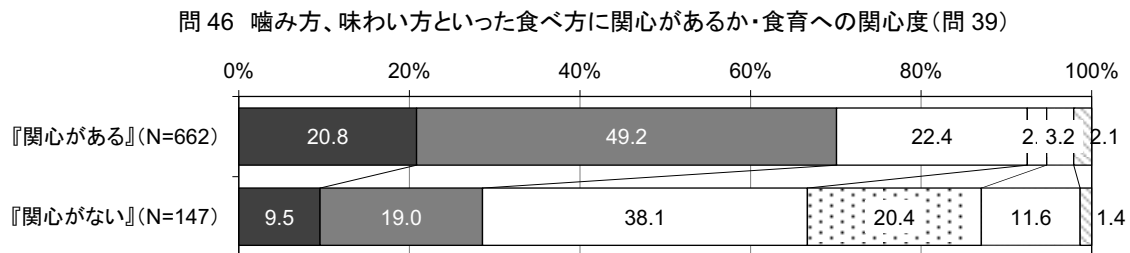
噛み方、味わい方といった食べ方への関心度は62.7%（「関心がある」18.8%、「どちらかといえば関心がある」43.9%の合計値）で約6割となっている。

内閣府調査（平成25年）と比較すると、関心度は内閣府（74.1%）より11.4ポイント低く、その内訳の「関心がある」は内閣府（40.1%）より21.3ポイント低くなっている。



■関心がある ■どちらかといえば関心がある □どちらかといえば関心がない □関心がない □わからない □無回答

食育への関心度※（問39）と合わせて見てみると、食育に「関心がある」（70.0%）が「関心がない」（28.5%）より高くなっている。



■関心がある ■どちらかといえば関心がある □どちらかといえば関心がない □関心がない □わからない □無回答

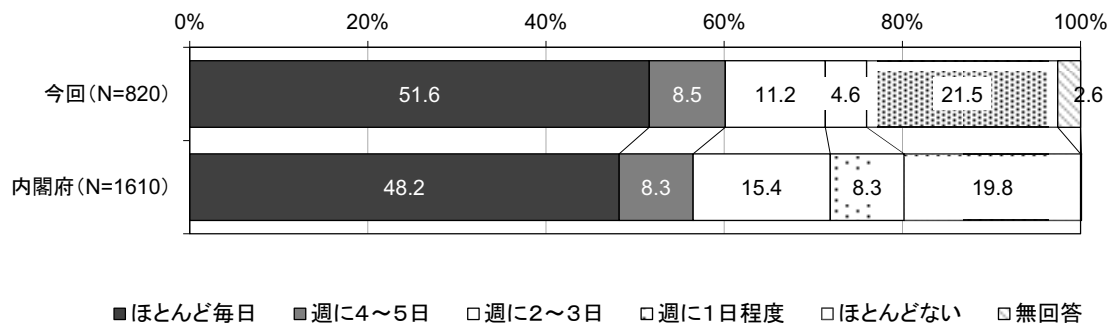
※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 47 家族や友人と一緒に食事（①朝食・②夕食）をすることはどのくらいありますか。（それぞれ1つ選択）

朝食では「ほとんど毎日」（51.6%）が約半数となっているが、これに次いで「ほとんどない」（21.5%）も約2割となっている。

内閣府調査（平成25年）と比較すると、「ほとんど毎日」は内閣府（48.2%）と大きな差は見られないが、「ほとんどない」は内閣府（8.3%）より低くなっている。

問 47① 朝食を家族や友人と一緒に食事をする頻度（1つ選択）

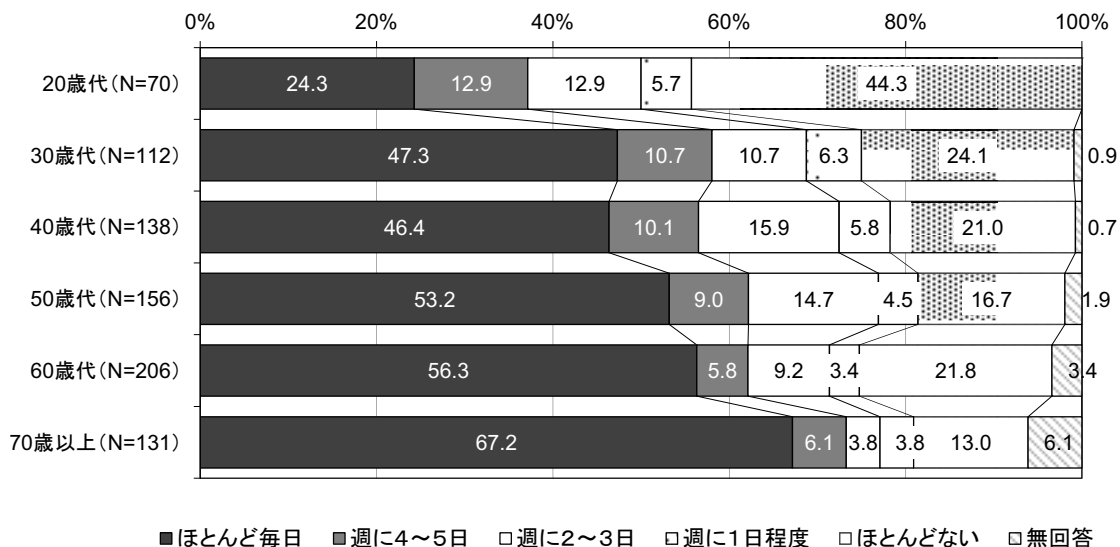


※内閣府は家族と同居している場合(N=1610)

年代別では、「ほとんど毎日」は20歳代（24.3%）が最も低く、高い年代ほど「ほとんど毎日」が高くなっており、70歳以上（67.2%）が7割で最も高くなっている。

また、「ほとんどない」は20歳代（44.3%）が最も高くなっており、若い年代ほど家族や友人と一緒に食事をする頻度が低いことがうかがえる。

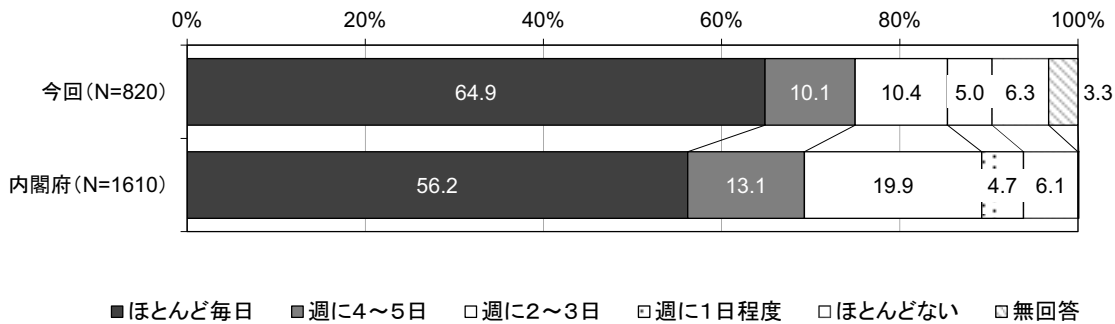
問 47① 朝食を家族や友人と一緒に食事をする頻度（年代別）



夕食では「ほとんど毎日」(64.9%)が朝食よりも高く、「ほとんどない」(6.3%)は低くなっている。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、「ほとんど毎日」は内閣府(56.2%)より8.7ポイント高くなっているが、「ほとんどない」は内閣府(6.1%)と大きな差は見られない。

問47② 夕食を家族や友人と一緒に食事をする頻度(1つ選択)

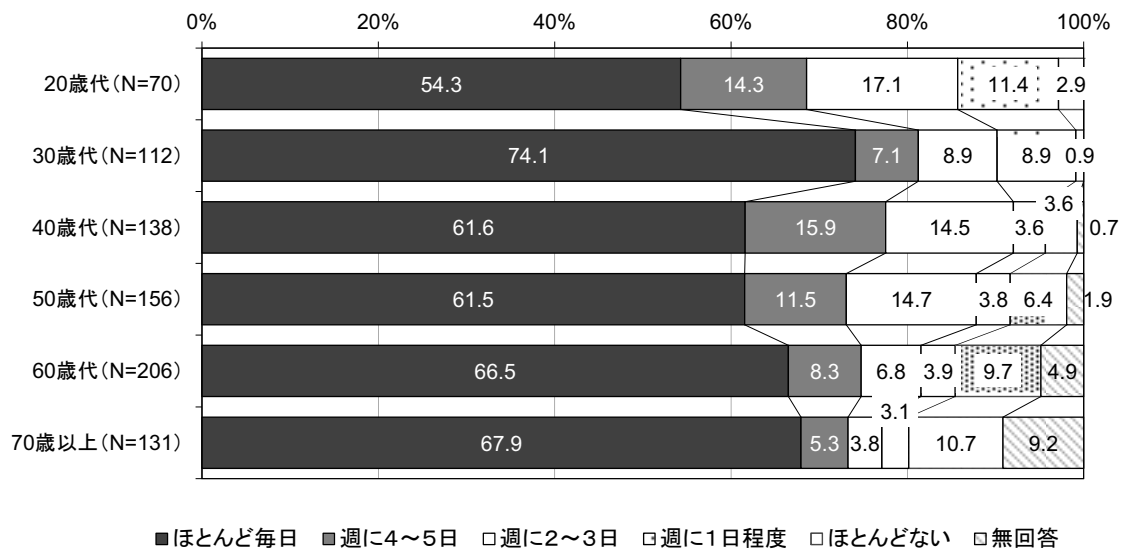


※内閣府は家族と同居している場合(N=1610)

年代別では、「ほとんど毎日」は20歳代(54.3%)が最も低く、30歳代(74.1%)が最も高くなっている。また、20歳代では「ほとんどない」(11.4%)が、他の年代よりも高くなっている。

朝食と比較すると、すべての年代において「ほとんど毎日」が高いことから、朝食よりも夕食の方が家族や友人と一緒に食事をする頻度が高いことがうかがえる。

問47② 夕食を家族や友人と一緒に食事をする頻度(年代別)

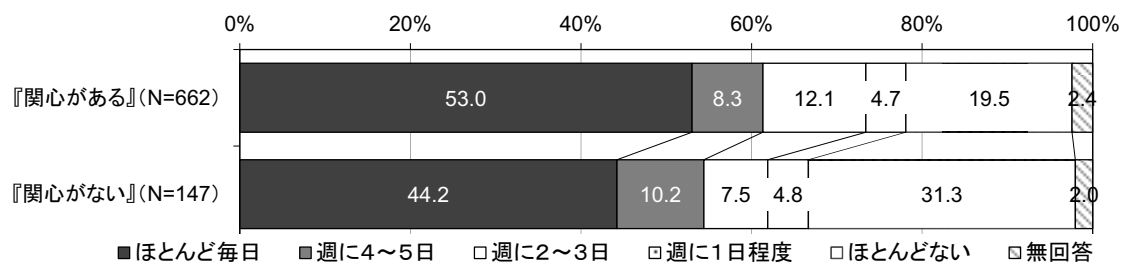


食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、朝食では「ほとんど毎日」は「関心がある」（53.0%）より「関心がない」（44.2%）が低くなっている。また、「ほとんどない」は「関心がない」（31.3%）では 3 割以上となっており、「関心がある」（19.5%）より 11.8 ポイント高くなっている。

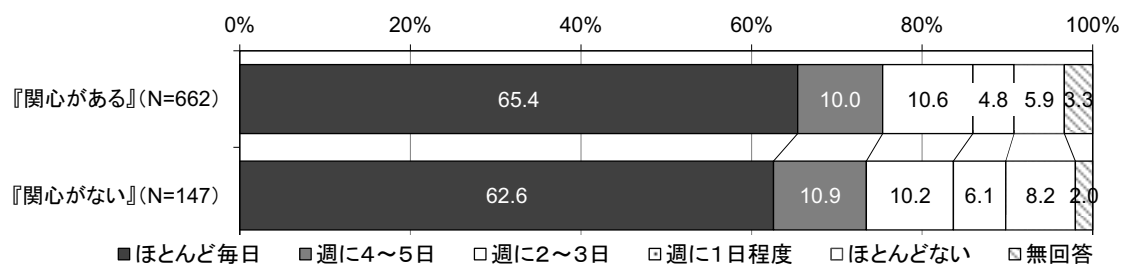
一方、夕食では「ほとんど毎日」、「ほとんどない」ともに、関心度による大きな差は見られない。

食育への関心度が、朝食で家族や友人と一緒に食事をする頻度を高めていることがうかがえるが、夕食では関心度による影響はうかがえない。

問 47① 朝食を家族や友人と一緒に食事をする頻度・食育への関心度(問 39)



問 47② 夕食を家族や友人と一緒に食事をする頻度・食育への関心度(問 39)



※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

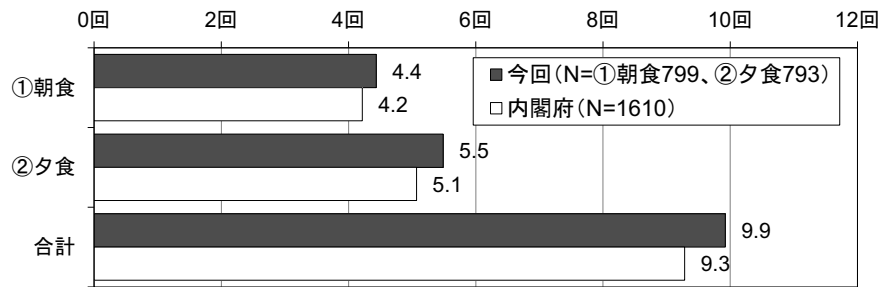
朝食または夕食を家族や友人と一緒に食べる「共食」※の回数を見ると、1週間当たりの平均回数は、朝食 4.4 回、夕食 5.5 回、合計値は 9.9 回となっている。

内閣府調査（平成 25 年）と比較すると、朝食、夕食ともにわずかに上回っている。

※「共食の算出方法」

「ほとんど毎日」を 7 回、「週に 4～5 日」を 4.5 回、「週 2～3 日」を 2.5 回、「週に 1 日程度」を 1 回として、加重平均により夕食・朝食それぞれの回数、さらにその合計値として週当たりの共食回数を指標化した。14 回に近くなるほど、朝食・夕食ともに共食回数が多いことを示す。

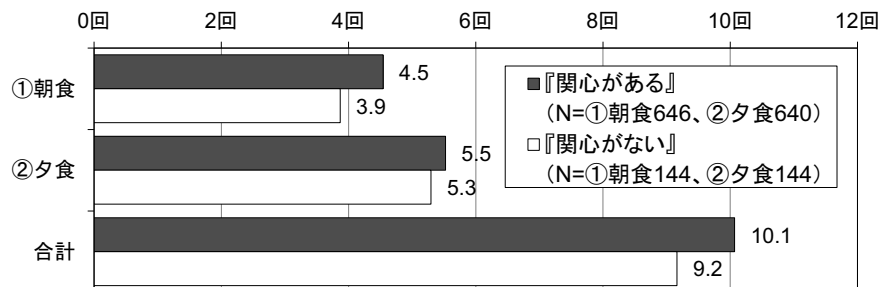
問 47 1週間当たり共食回数(今回・内閣府)



※無回答を除く

食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、朝食、夕食のいずれも「関心がある」は「関心がない」より平均回数が増えているが、夕食では大きな差は見られない。

問 47 1週間当たり共食回数・食育への関心度(問 39)



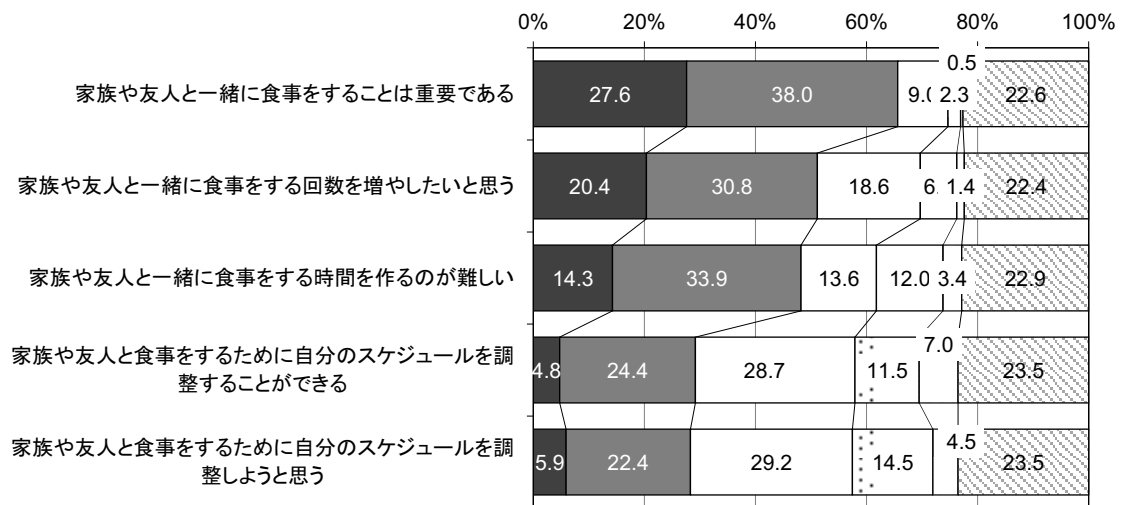
※無回答を除く

※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 48 問 47 で①朝食、②夕食の両方とも「ほとんど毎日」とした方以外の方にうかがいます。家族や友人と一緒に食事をするについてどのように思いますか。(それぞれ1つ選択)

「思う」(「とてもそう思う」、「そう思う」の合計値)は「家族や友人と一緒に食事をするこ
とは重要である」(65.6%)が6割以上で最も高く、次いで「家族や友人と一緒に食事をする回
数を増やしたいと思う」(51.2%)、「家族や友人と一緒に食事をする時間を作るのが難しい」
(48.2%)がともに約5割となっている。

問 48 家族や友人と一緒に食事をするについて(それぞれ1つ選択)

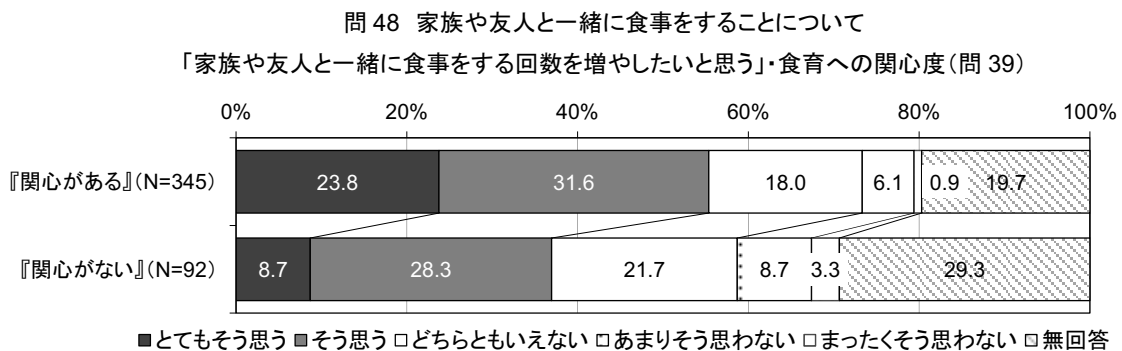
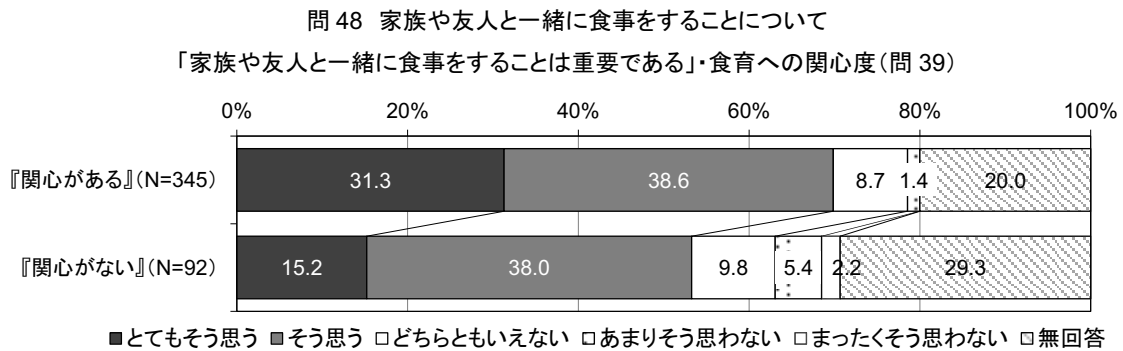


■とてもそう思う ■そう思う □どちらともいえない □あまりそう思わない □まったくそう思わない □無回答

(N=442)

食育への関心度※（問 39）と「家族や友人と一緒に食事をすることは重要である」、「家族や友人と一緒に食事をする回数を増やしたいと思う」の 2 項目について合わせて見てみると、いずれの項目も食育への関心度が高い方が、「思う」（「とてもそう思う」、「そう思う」の合計値）が高くなっている。

食育への関心度が、家族や友人との食事の重要性を認識させ、家族や友人との食事の回数を増やしたいという意向を高めていることがうかがえる。



※食育への関心度『関心がある』は、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

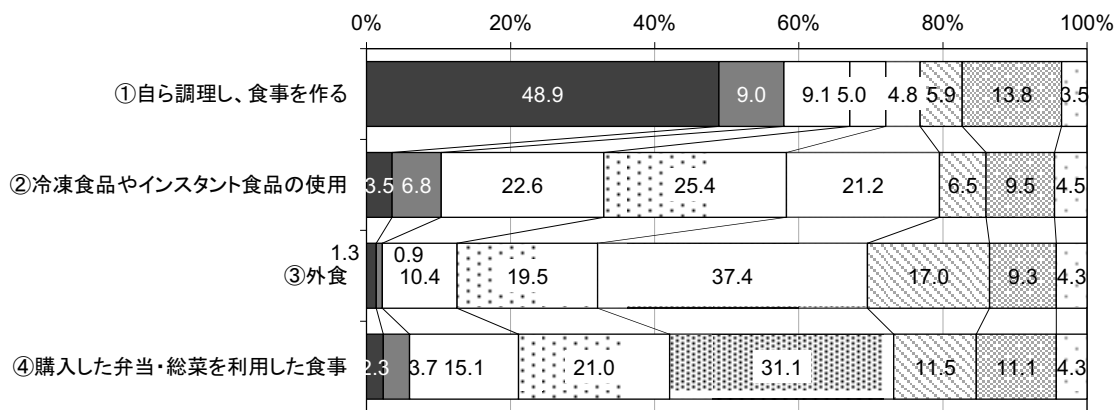
問 49 ふだん、以下のことをする機会が、どれくらいありますか。(それぞれ1つ選択)

「自ら調理し、食事を作る」は、「ほとんど毎日」(48.9%)が約5割となっている。

「冷凍食品やインスタント食品の使用」は、「ほとんど毎日」は3.5%と低く、「週に2～3日」(22.6%)と「週に1日程度」(25.4%)が高く、合わせて約半数(48.0%)となっている。

「外食」や「購入した弁当・惣菜を利用した食事」の頻度は、「月に数回」(それぞれ37.4%、31.1%)が最も高くなっている。

問 49 調理・インスタント食品等・外食・弁当や惣菜の利用の頻度(それぞれ1つ選択)



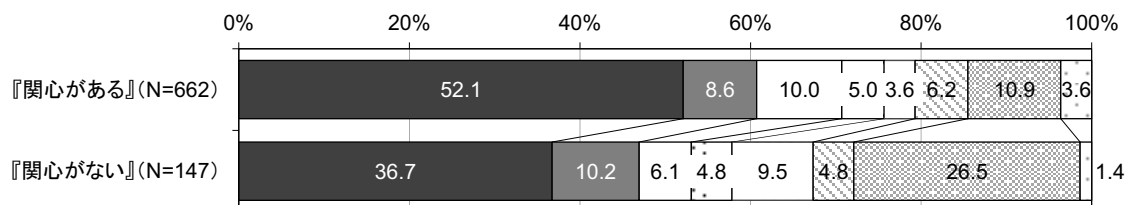
■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

(N=820)

食育への関心度※(問39)と「ほとんど毎日」が約5割となっている「自ら調理し、食事を作る」について合わせて見てみると、「ほとんど毎日」は食育に「関心がある」(52.1%)が「関心がない」(36.7%)より高くなっている。

また、「ほとんどない」は「関心がない」(26.5%)が2割以上で、「関心がある」(10.9%)より高くなっており、食育への関心が「自ら調理し、食事を作る頻度」を高めていることがうかがえる。

問 49 自ら調理し、食事を作る頻度・食育への関心度(問39)



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

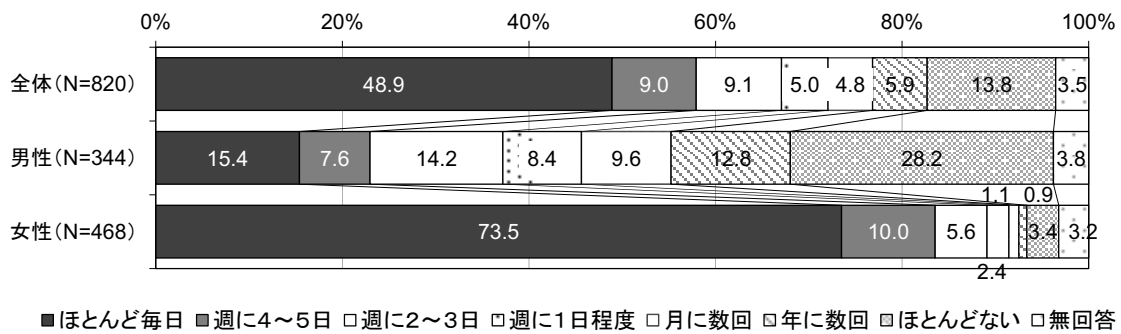
※食育への関心「関心がある」は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、「関心がない」は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

①自ら調理し、食事を作る

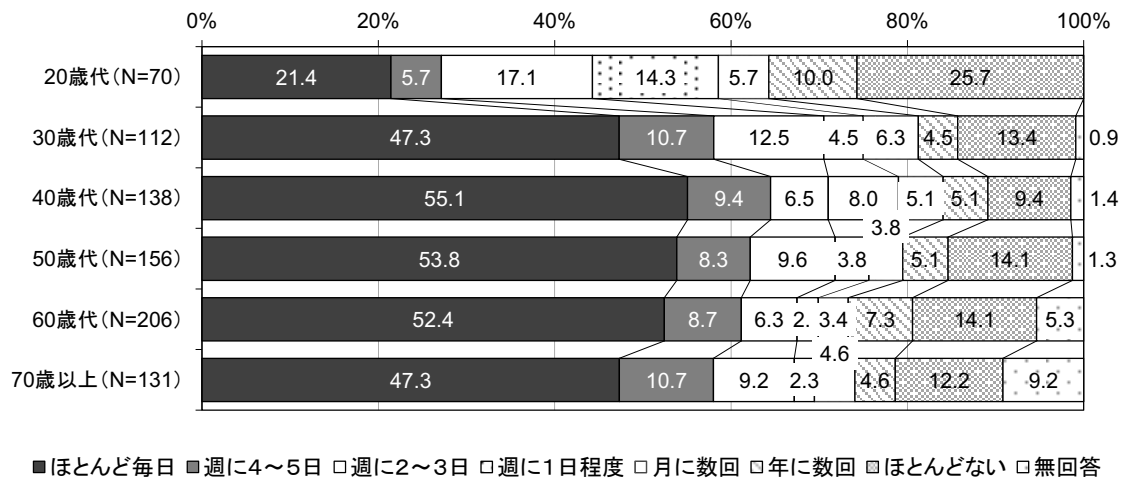
性別では、「ほとんど毎日」は、女性（73.5%）は7割以上、男性は2割未満（15.4%）で男性が低くなっている。また、「ほとんどない」は、男性（28.2%）は約3割で女性（3.4%）より高くなっている。

年代別では、「ほとんど毎日」は20歳代を除くすべての年代で最も高くなっている。20歳代では「ほとんどない」（25.7%）が2割以上で最も高く、「ほとんど毎日」（21.4%）も同程度となっている。

問 49 ①自ら調理し、食事を作る頻度（性別）



問 49 ①自ら調理し、食事を作る頻度（年代別）

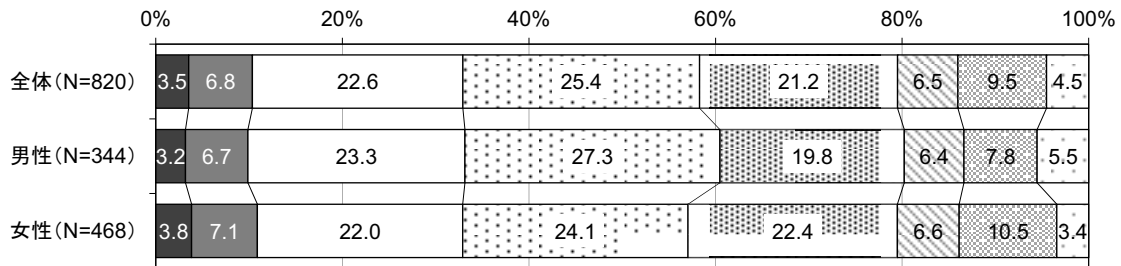


②冷凍食品やインスタント食品の使用

性別では、大きな差は見られないが、年代別では、20歳代は「週に2～3日」以上（「ほとんど毎日」（4.3%）、「週に4～5日」（15.7%）、「週に2～3日」（35.7%）の合計値）が半数以上（55.7%）となっており、他の年代よりも高くなっている。

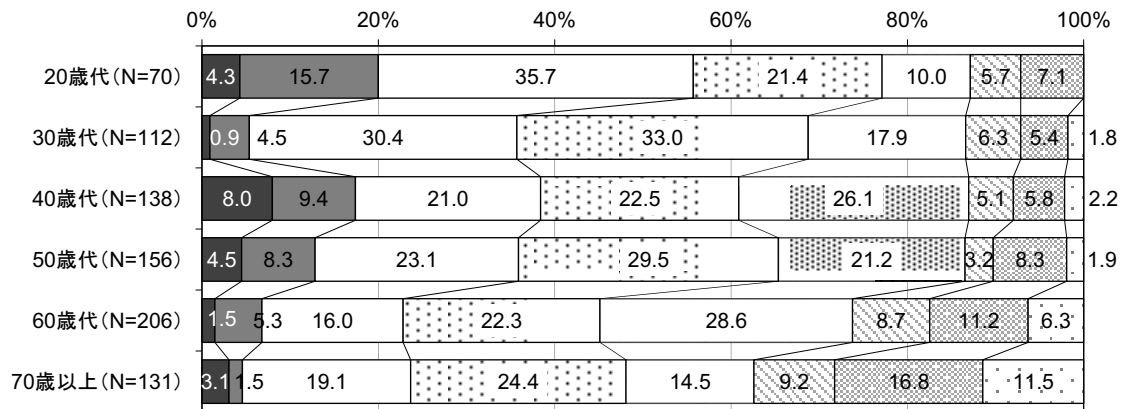
また、高い年代ほど利用する頻度が低いことがうかがえる。

問 49 ②冷凍食品やインスタント食品の使用(性別)



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

問 49 ②冷凍食品やインスタント食品の使用(年代別)



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

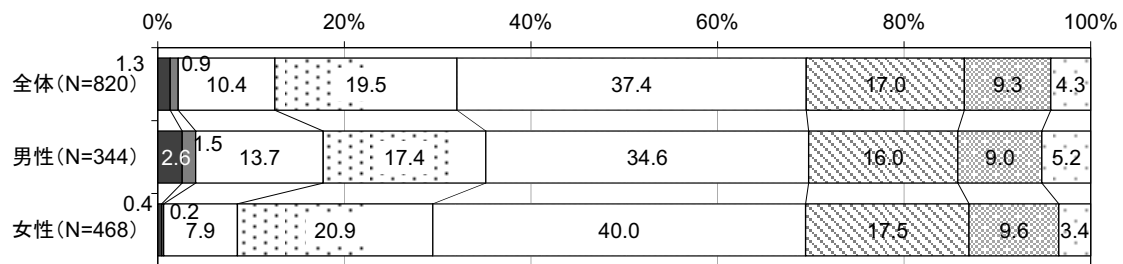
③ 外食

性別では、男女とも「月に数回」（男性 34.6%、女性 40.0%）がともに、最も高くなっているが、大きな差は見られない。

しかし、「ほとんど毎日」、「週に4～5日」、「週に2～3日」は、いずれも男性が高くなっており、男性は外食の頻度が高い傾向がうかがえる。

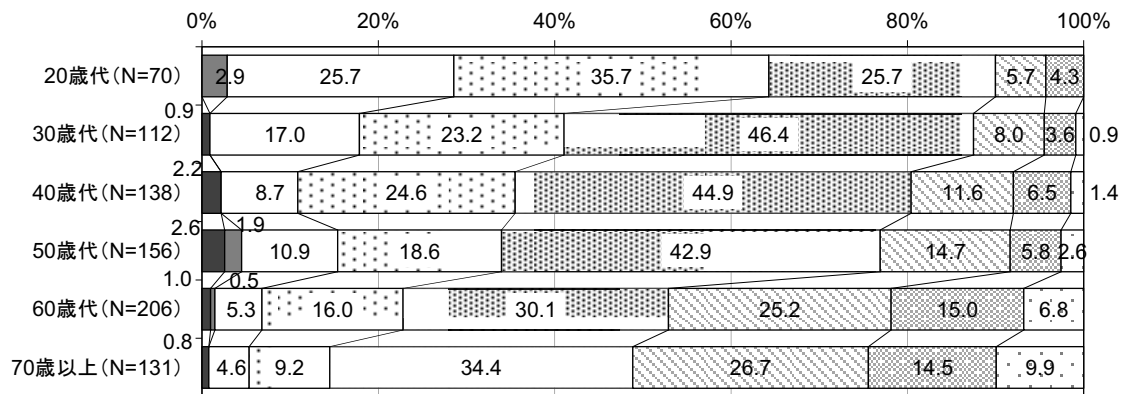
年代別では、20歳代を除くすべての年代で「月に数回」が最も高く、20歳代は「週に1日程度」（35.7%）が最も高くなっている。20歳代は「週に2～3日」も高くなっており、若い世代ほど外食の頻度が高いことがうかがえる。

問 49 ③ 外食(性別)



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

問 49 ③ 外食(年代別)



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

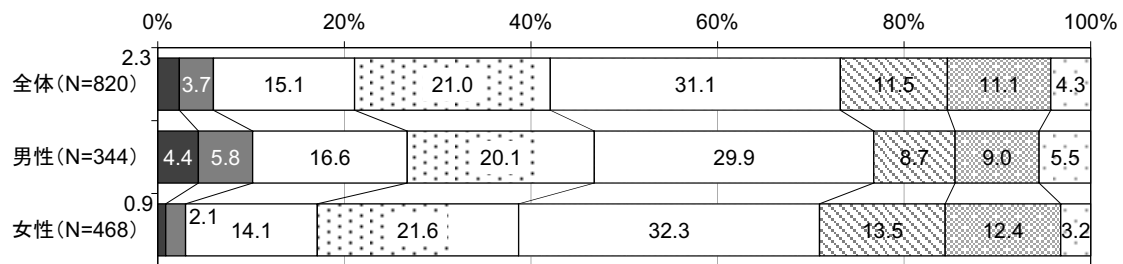
④購入した弁当・惣菜（食事の半分以上を占める）を利用した食事

性別では、「外食」と同様、男女とも「月に数回」（男性 29.9%、女性 32.3%）がともに、最も高くなっているが、大きな差は見られない。

しかし、「ほとんど毎日」、「週に4～5日」は、いずれも男性が高くなっており、男性は購入した弁当・惣菜を利用した食事の頻度が高い傾向がうかがえる。

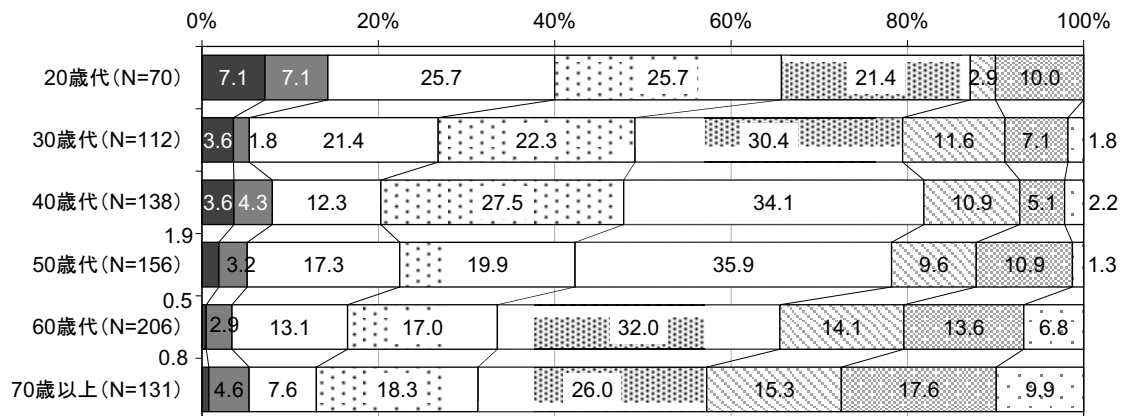
年代別では、20歳代を除くすべての年代で「月に数回」が約3割で最も高くなっている。20歳代は「週に2～3日」、「週に1日程度」（25.7%で同値）が最も高くなっており、若い世代ほど購入した弁当・惣菜を利用した食事の頻度が高い傾向がうかがえる。

問 49 ④購入した弁当・惣菜（食事の半分以上を占める）を利用した食事（性別）



■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

問 49 ④購入した弁当・惣菜（食事の半分以上を占める）を利用した食事（年代別）



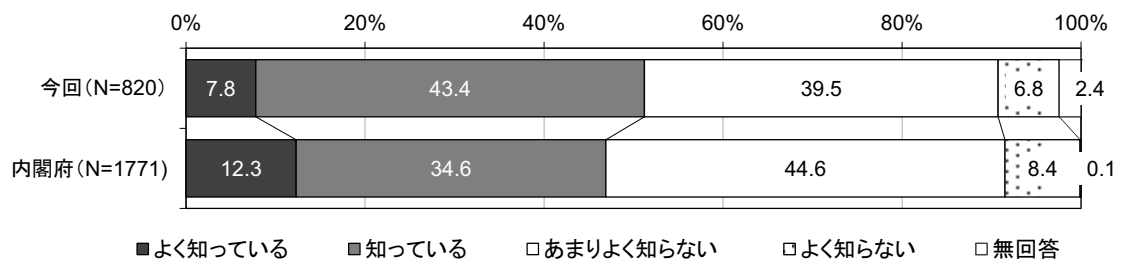
■ほとんど毎日 ■週に4～5日 □週に2～3日 □週に1日程度 □月に数回 □年に数回 □ほとんどない □無回答

問 50 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っていますか。(1つ選択)

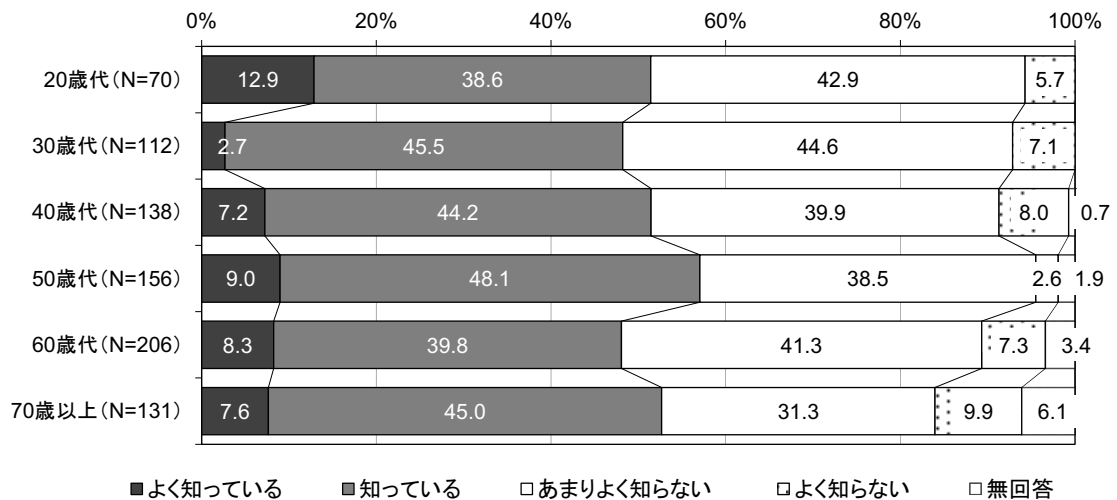
郷土料理や伝統料理などの認知度(「よく知っている」7.8%、「知っている」43.4%)の合計値は、約半数(51.2%)となっており、「知らない」(46.3%)(「あまりよく知らない」(39.5%)、「知らない」(6.8%)の合計値)より4.9ポイント高くなっている。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、認知度は内閣府(46.9%)より高くなっている。年代別では、各年代とも認知度は約5割となっている。

問 50 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っているか(1つ選択)



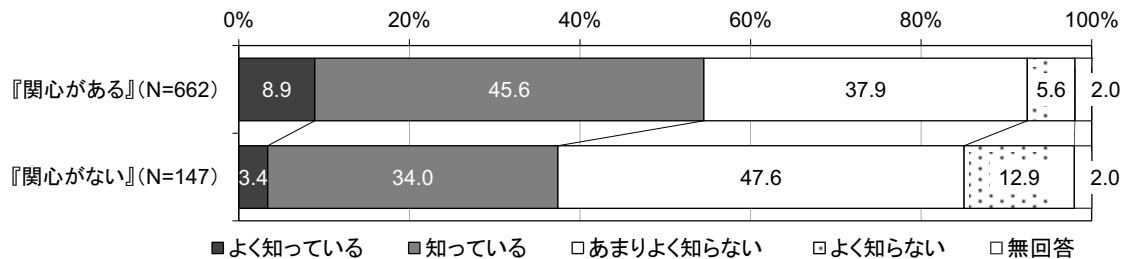
問 50 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っているか(年代別)



食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、認知度は食育に「関心がある」（54.5%）で5割以上であり、「関心がない」（37.4%）より高くなっている。

食育への関心が高い方が、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている傾向がうかがえる。

問 50 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っているか・食育への関心度(問 39)

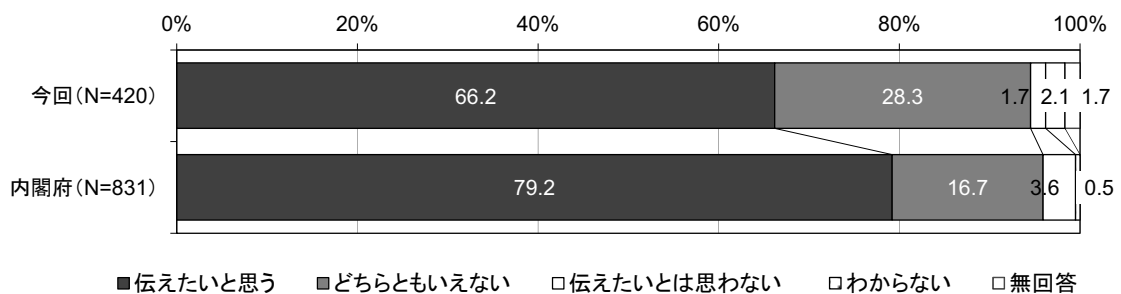


※食育への関心「関心がある」は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、「関心がない」は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 51 問 50 で「よく知っている」「知っている」とした方にうかがいます。郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を、次世代に伝えたいと思いますか。（1つ選択）

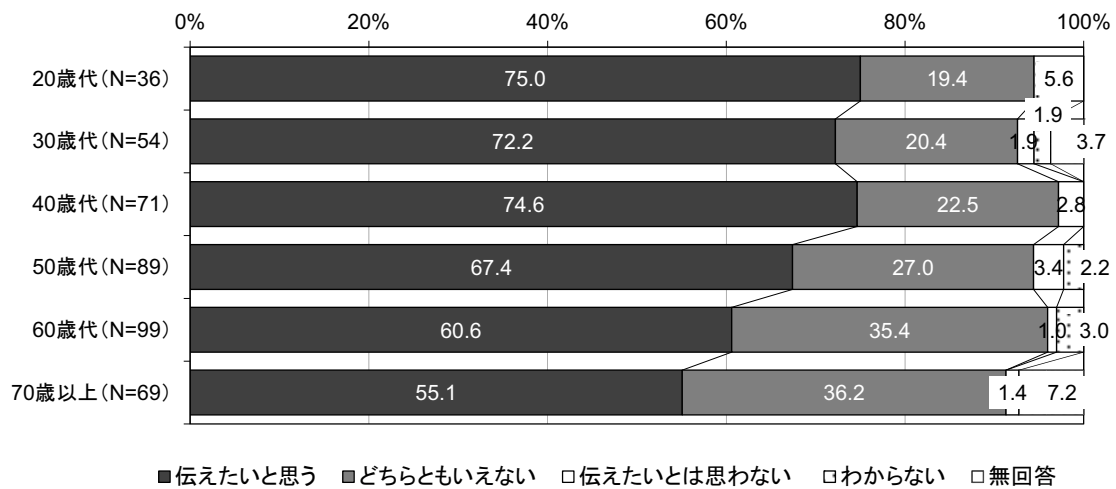
「伝えたいと思う」（66.2%）が6割以上であり、郷土料理や伝統料理の認知度は次世代への伝承につながるとうかがえる。

問 51 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を次世代に伝えたいと思うか(1つ選択)



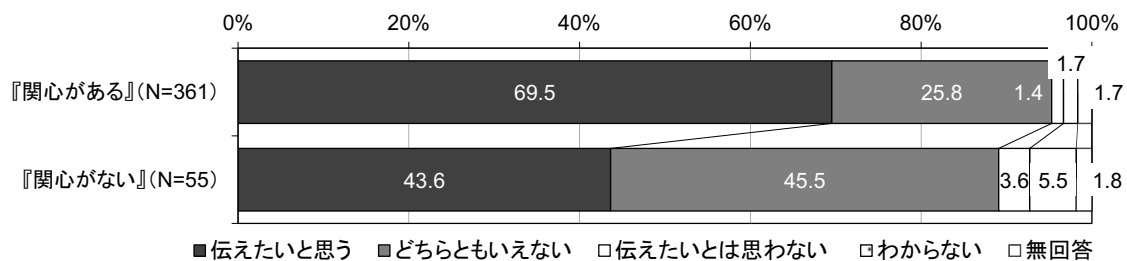
年代別では、すべての年代において「伝えたいと思う」が最も高いが、高い年代ほど「どちらともいえない」が高くなっている傾向がうかがえる。

問 51 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を次世代に伝えたいと思うか(年代別)



食育への関心度* (問 39) と合わせて見てみると、「伝えたいと思う」は食育に「関心がある」(69.5%) で約 7 割、「関心がない」(43.6%) で 4 割以上となっており、食育への関心度が高い方が、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について伝えたいという意向が強いことがうかがえる。

問 51 郷土・伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味を次世代に伝えたいと思うか
・食育への関心度(問 39)

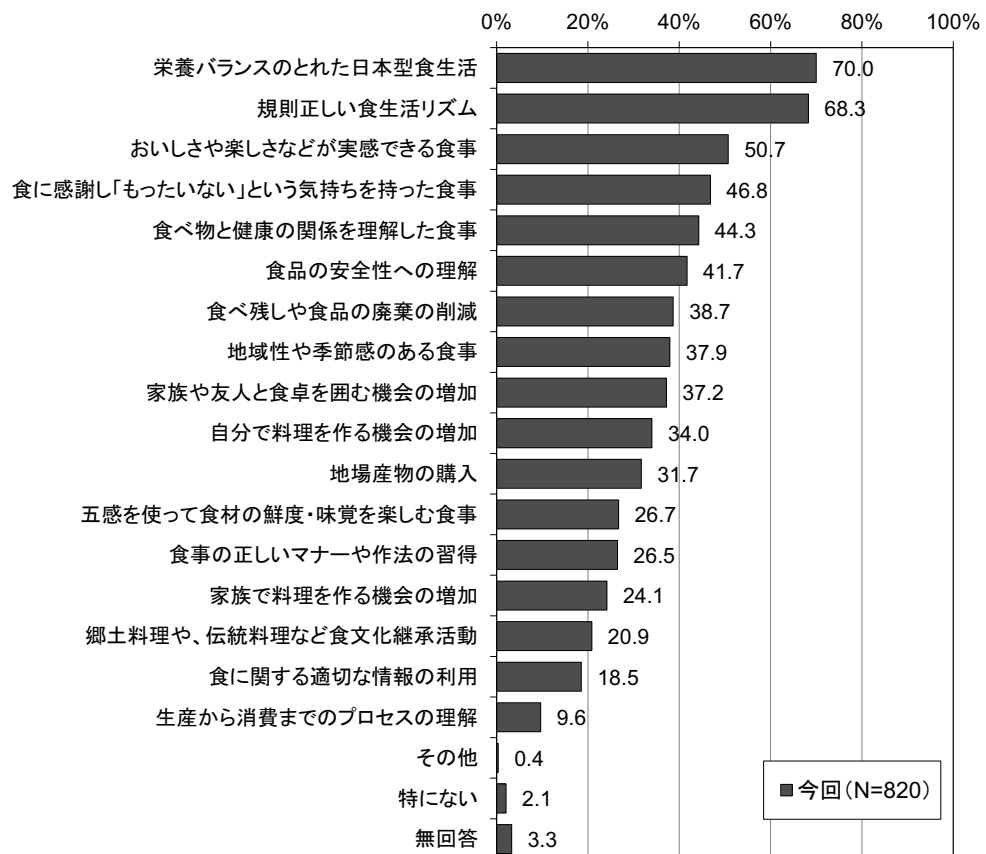


※食育への関心「関心がある」は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、「関心がない」は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 52 今後の食生活でどのような面に力を入れたいと思いますか。(すべて選択)

「栄養バランスのとれた日本型食生活」(70.0%)が最も高く、次いで「規則正しい食生活リズム」(68.3%)、「おいしさや楽しさなどが実感できる食事」(50.7%)、「食に感謝し『もったいない』という気持ちを持った食事」(46.8%)となっている。

問 52 今後の食生活でどのような面に力を入れたいと思うか



(その他の主な内訳)

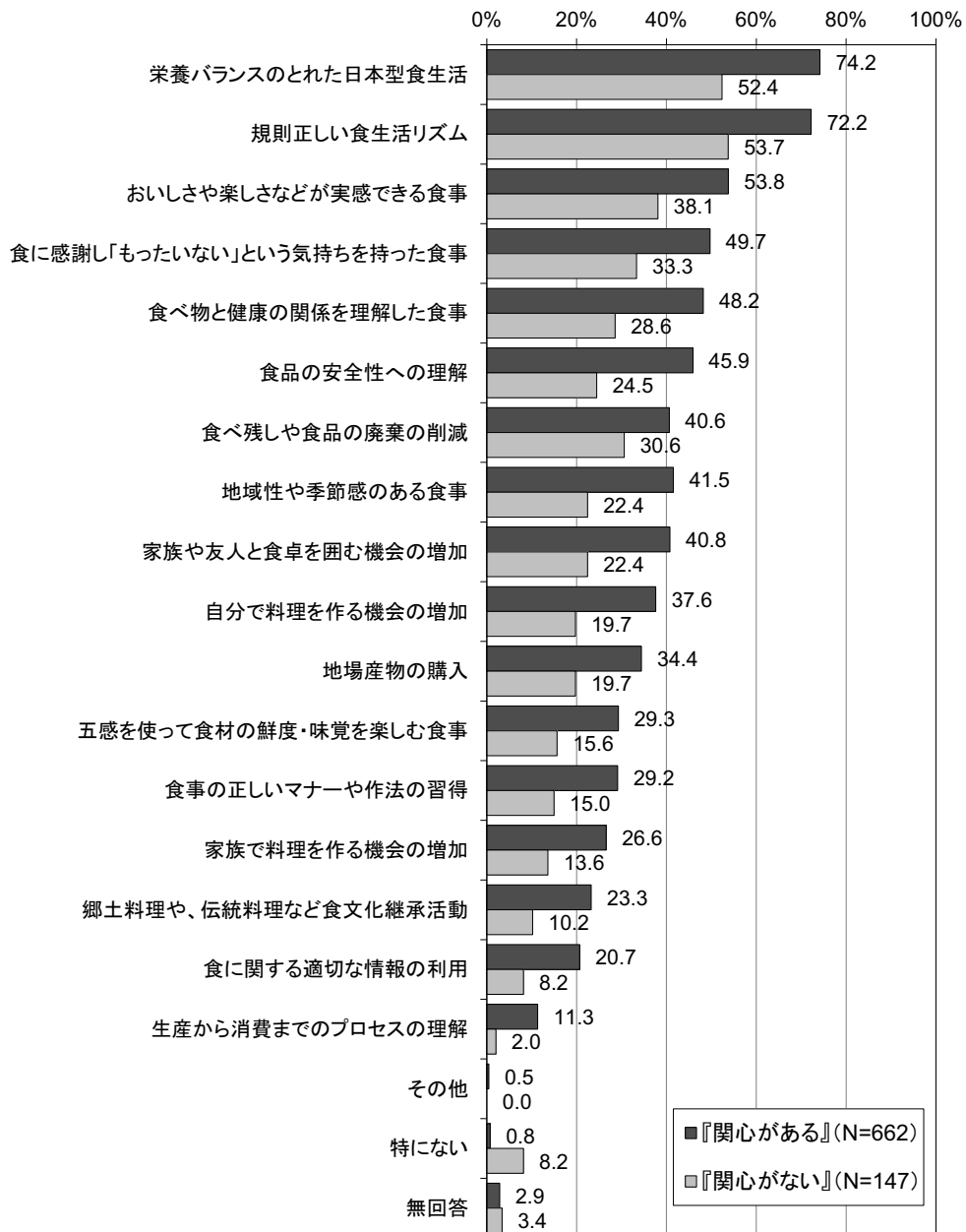
- ・年齢にあった食事
- ・食べ過ぎない、また、少食でもなく
- ・放射性物質を取り込まない食生活

食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、「特にない」を除くすべての項目で食育に「関心がある」が「関心がない」より高くなっている。

また、「関心がある」では、「栄養バランスのとれた日本型食生活」（74.2%）、「規則正しい食生活リズム」（72.2%）の2項目が7割以上となっている。

食育への関心度が高い方が、今後の食生活での具体的な実践への意向が強いことがうかがえる。

問 52 今後の食生活でどのような面に力を入れたいと思うか・食育への関心度(問 39)



※食育への関心『関心がある』は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

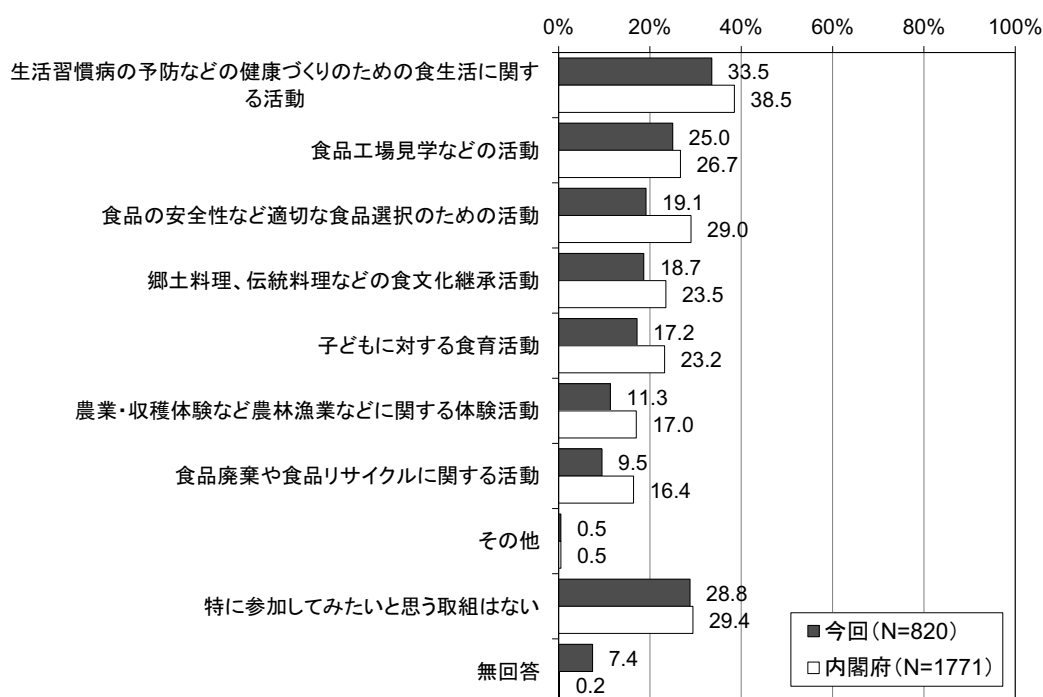
2-19 食育ボランティアについて

問 53 自治体やボランティア、NPO、企業などの食育に関する取組で、参加してみたいと思うものはありますか。(3つまで選択)

「生活習慣病の予防などの健康づくりのための食生活に関する活動」(33.5%)が最も高く、次いで「食品工場見学などの活動」(25.0%)、「食品の安全性など適切な食品選択のための活動」(19.1%)、「郷土料理、伝統料理などの食文化継承活動」(18.7%)、「子どもに対する食育活動」(17.2%)となっている。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、ほとんどの項目で内閣府が高くなっている。

問 53 自治体やボランティア、NPO、企業などの食育に関する取組で、参加してみたいと思うもの(3つまで選択)



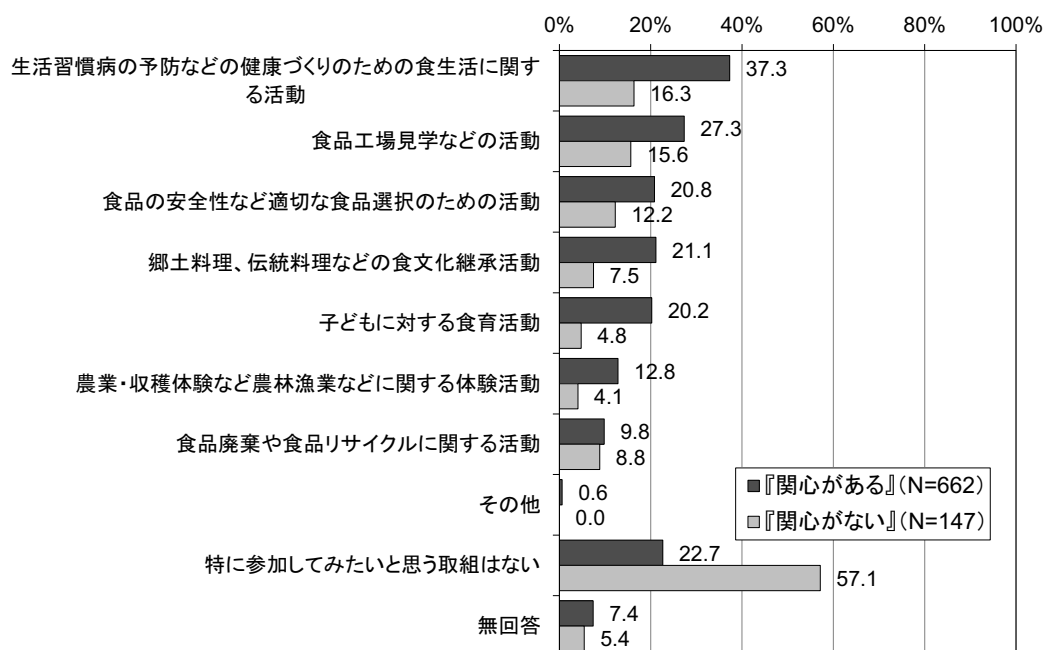
(その他の主な内訳)

- ・他のボランティア活動をやっている、これ以上できない
- ・年齢的なものがある
- ・今は仕事が忙しく参加することが考えられない
- ・よくわからない

食育への関心度※（問 39）と合わせて見てみると、「特に参加してみたいと思う取組はない」を除くすべての項目で食育に「関心がある」が「関心がない」より高くなっている。

「特に参加してみたいと思う取組はない」は、「関心がない」（57.1%）で約 6 割となっている。

問 53 自治体やボランティア、NPO、企業などの食育に関する取組で、参加してみたいと思うもの・食育への関心度(問 39)



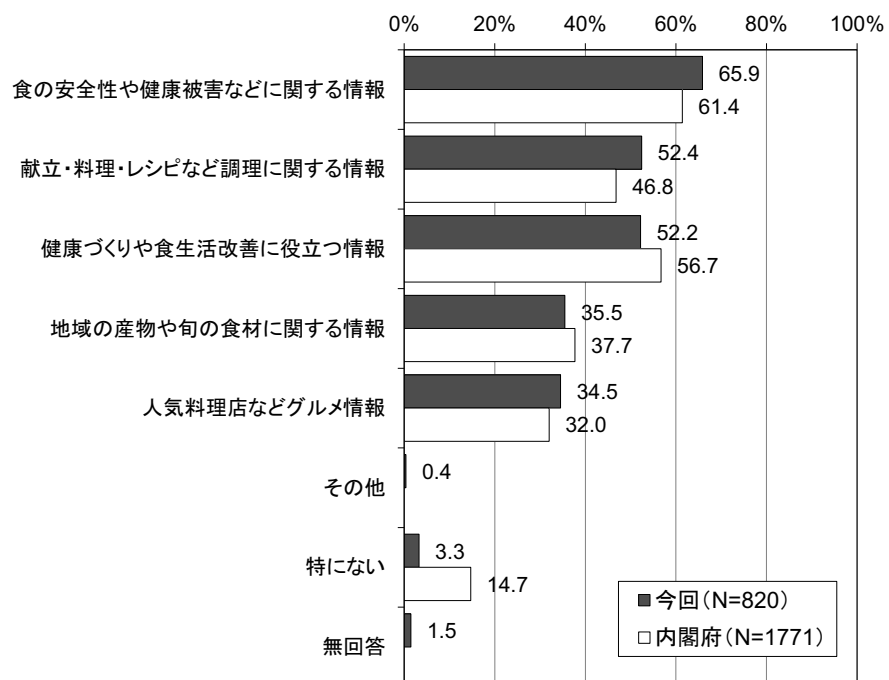
※食育への関心『関心がある』は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計値、『関心がない』は「どちらかといえば関心がない」、「関心がない」の合計値

問 54 食について関心があるのはどのような情報ですか。(すべて選択)

「食の安全性や健康被害などに関する情報」(65.9%)が最も高く、次いで「献立・料理・レシピなど調理に関する情報」(52.4%)、「健康づくりや食生活改善に役立つ情報」(52.2%)となっている。

内閣府調査(平成25年)と比較すると、「食の安全性や健康被害などに関する情報」(内閣府61.4%)、「献立・料理・レシピなどの調理に関する情報」(内閣府46.8%)は内閣府より高くなっているが、「健康づくりや食生活改善に役立つ情報」(内閣府56.7%)は内閣府より低くなっている。また、「特にない」は、内閣府(14.7%)より低くなっている。

問 54 食について関心がある情報(今回・内閣府)



(その他の主な内訳)

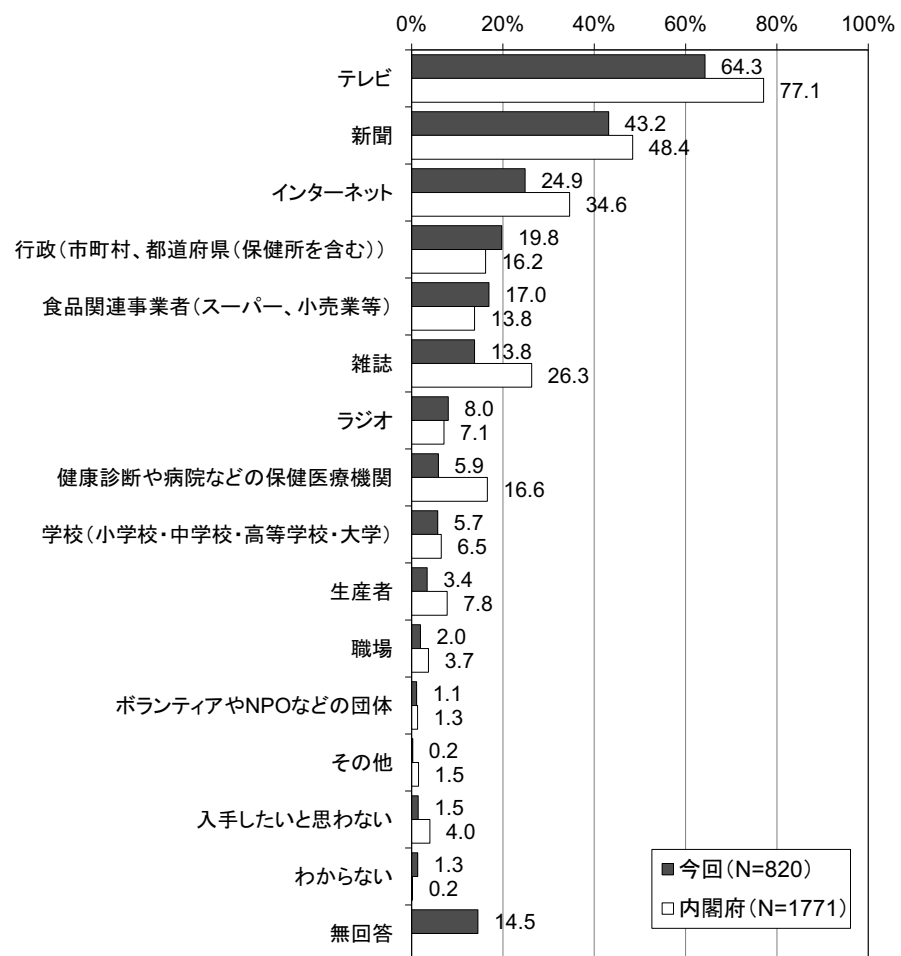
- ・原産国
- ・消毒しない野菜作り
- ・海外の民族特有の食文化

問 55 今後、食育に関する情報をどこから入手したいと思いますか。(3つまで選択)

「テレビ」(64.3%) が最も高く、次いで「新聞」(43.2%)、「インターネット」(24.9%) となっている。

内閣府調査(平成 25 年)と比較すると、上位項目の「テレビ」(内閣府 77.1%)、インターネット」(内閣府 34.6%) は内閣府より低くなっている。また、「雑誌」、「健康診断や病院などの保健医療機関」も低くなっているが、「行政(市町村、都道府県(保健所を含む))」、「食品関連事業者(スーパー、小売業等)」は内閣府より高くなっている。

問 55 今後、食育に関する情報をどこから入手したいと思うか(3つまで選択)



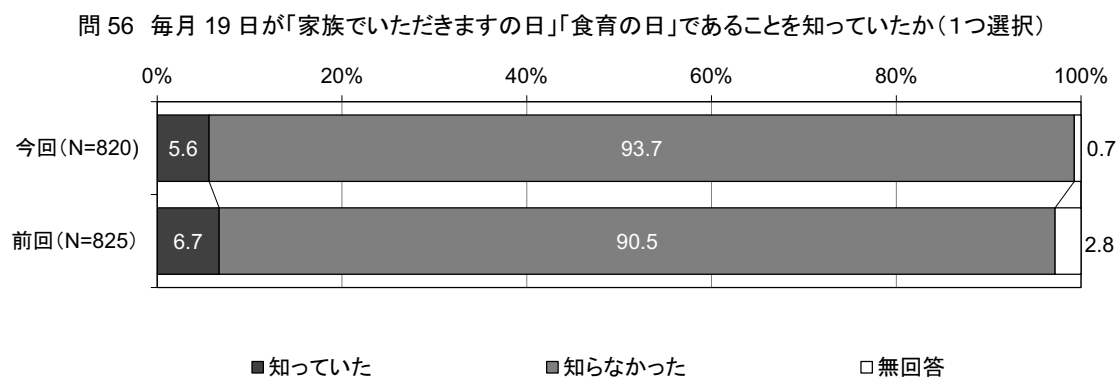
(その他の主な内訳)

- ・スマートフォン
- ・友達
- ・自分で選んだ本

2-20 「家族でいただきますの日」「食育の日」について

問 56 毎月 19 日が「家族でいただきますの日」「食育の日」であることを知っていましたか。
(1つ選択)

「知らなかった」(93.7%) が 9 割以上で、前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。



食品の安全性について「不安」の理由（問2（2）） 具体的な記述内容

①残留農薬（13件）

- ・生産者、事業者は管理しきれていない
- ・尾島の大和芋の件、生産者の知識不足
- ・自分で野菜を作ると、売られている食品は消毒が多いと思える
- ・農薬の種類
- ・川に生物がない（ドジョウ、ザリガニ等）
- ・野菜の輸入品が多い
- ・あちこちで偽装事件があるから
- ・乳幼児がいるので特に心配している。表示が正しくされているのか疑問もある
- ・形、大きさを重視しすぎる
- ・薬品がわからないから
- ・外国で規制されている農薬が日本で使用
- ・中国からの輸入品が不安
- ・体内に蓄積されるから

②着色料・甘味料・保存料等の食品添加物（11件）

- ・見た目重視の考え方
- ・個人的なアレルギー体質のため
- ・生産者、事業者は管理しきれていない
- ・人体への害が不安
- ・発ガン性
- ・ちょっとしたお惣菜にもなにかゆえあのような大量の添加物が必要なのでしょう。どのように安全であるか、良くないかを知りたいです
- ・アジアからの輸入品
- ・見た目を重視しすぎる
- ・保存料
- ・外国で規制されている保存料が日本で使用
- ・自分の目で見ていないから

③輸入食品（26件）

- ・中国産等あらゆる面で不安
- ・特に中国製品
- ・中国産（3件）
- ・中国製は不要
- ・中国の物が心配
- ・反日国からの輸入は特に不安
- ・特に中国産は信用できない
- ・中国製品の管理が杜撰
- ・中国や韓国のモラルが低いから
- ・中国製
- ・中国産のものは、中国の国としての管理が整っていない
- ・中国製などの最近の杜撰な生産管理など
- ・中国（2件）
- ・中国産などは安全面で不安
- ・外国の日本との添加物の基準の違いで厳しい方がよい。外国は緩いのではないかと
- ・輸入品の防腐剤や農薬がすごく心配です
- ・輸出国の管理状態
- ・アジアからの輸入品
- ・信用できない
- ・基準が曖昧
- ・食品添加物
- ・残留農薬
- ・自分の目で見ていないから

④ノロウイルス、O157等の食中毒（10件）

- ・時々、旅館や学校でニュースになっているから
- ・生産者、事業者が利益追求しすぎ
- ・以前娘がO157にかかりました。結局原因はわからなかったのですが、家族で発症したものはおらず、娘はほとんど外食なので、今となっては「あの店だったのでは」という思いが強くなっています。今でも外食は不安だと思っています
- ・集団感染
- ・すぐに体に影響が出るから
- ・国内製品にも多い
- ・予防が困難
- ・従業員の健康管理
- ・衛生管理
- ・自分の目で見ていないから

⑤遺伝子組換え食品（8件）

- ・開発途上で未知だから
- ・遺伝子組み換えの順番
- ・国の法令がどうか
- ・遺伝子組換え食品でなくても5%は使用されている
- ・科学的根拠
- ・商品を見ただけでは分からないから
- ・表示がない
- ・倫理的側面での社会的配慮が不十分

⑥健康食品（6件）

- ・個人的なアレルギー体質のため
- ・あまり縁はないが、業者が入ると不安
- ・何が入っているか不明。一度体調が悪くなった
- ・科学的裏付けが希薄のまま宣伝販売が進む
- ・添加物の表示
- ・本当に「健康」食品なのか

⑦食品の偽装表示（9件）

- ・見た目では書いてあっても自分ではわからないから
- ・テレビでよく見るから
- ・ごまかしが多いこと
- ・会社の利益優先で、消費者に対してウソをつくこともあると思うから
- ・「売らんかな」による過当競争の弊害
- ・パッケージの表示を信用するしかない
- ・添加物の表示
- ・アジアからの輸入品
- ・行政指導

⑧食品中のアレルギー物質（12件）

- ・急な発症への不安
- ・個人的なアレルギー体質のため
- ・自分がアレルギー体質だから
- ・アレルギー体質のため
- ・自分にアレルギーがある
- ・子どもが食物アレルギー持ちのため
- ・息子がアレルギーだから
- ・加工品にはいろんな食品が入っているので、生産者がきちんと管理して作っていると信用するしかない
- ・すぐに体に影響が出るから
- ・突発性アレルギーとか、体調等によって発症する可能性があるかもしれない
- ・アジアからの輸入品
- ・食の駅などの生産者直売品に表示がない

⑨有機水銀、カドミウム等の重金属（6件）

- ・一番体に悪いものだから
- ・どこから有機水銀やカドミウムが食べ物に入るのかわからない
- ・体に悪いものが入っていそう
- ・輸入品に対して不安
- ・アジアからの輸入品
- ・不法投棄で有害なものが捨てられ、汚染されている実態を他県で聞いている。ゴミではなく製品として有害なものを放置している場合もあるので、行政は頑張ってもらいたい

⑩放射性物質（13件）

- ・自家野菜は未検査
- ・放射能は目に見えないので誰も分からないから不安です。表示も出してほしいです
- ・原発のことで政府は、汚染された土壌があるのに、水のことは一切何も言わないから不安
- ・国によって基準値が違いすぎる
- ・都合の悪い情報は隠されているような印象がある
- ・よくわからないので不安
- ・ガンが怖い
- ・情報が不足
- ・福島からの飛散
- ・福島
- ・日本の規制基準の甘さ。WHO やドイツの安全基準より甘い。また学校給食も栄養士は「流通しているものは汚染されていても出す」という姿勢。学校で高線量地域のもを出されても親はそれを知る手立てがない
- ・目に見えないから
- ・原発事故が発生したから

自由記入

(食品の安全性確保や食育施策についてのご意見がありましたら、ご記入願います。)

輸入食品

- ・最近メディアで報道された中国の鶏肉等は、氷山の一角で、まだまだいっぱいあるような気がします。検査を強化してほしいと思います。(男性・60歳代)
- ・輸入品の基準値を厳しく、二重、三重のチェックをしてほしい。(男性・70歳以上)
- ・食品は国内生産、地場産物を重視しています。冷凍食品の輸入品は安全性に信頼をおかず、食しません。(女性・70歳以上)
- ・中国からの輸入を減らした方がよい。買う客も少ないし無駄。(男性・60歳代)
- ・中国産の食品は絶対口にしません。輸入基準の強化をお願いしたい。(女性・50歳代)
- ・外国の輸入食品を少なくし、地場野菜(群馬県産)や地元の野菜を多くしてもらいたいです(スーパーの売り場で)。(女性・60歳代)
- ・極端だが動物用も含めて中国産の食品や原材料をできるだけ排除する施策を。(女性・70歳以上)
- ・改めて食品に関心が出ました。口にするもの、豊かな日本でありませが嘘表示や衛生面での問題等、安全が1番であるために(何を食べても安全)、私は海外物をなるべく口にしない。野菜類は群馬県産を。(女性・50歳代)
- ・子どもがいると色々気がかりな点があるが、実際の生活の中では輸入品(特に中国産)を使用せざるを得ない。検査をすり抜けて流通してしまう物も実際にあった。いくら啓蒙活動で知識を得ても実際に手にする物がそういう物であったら元もこもないのでこれからも検査よろしくです。(女性・40歳代)
- ・輸入食品の安全性については外国なので特に行政の指導や監視を強化し、日本の食の安全性を今以上に確保して頂きたいと思います。(男性・50歳代)
- ・中国、他のアジア圏、アメリカは信用できない、TPP問題もうやむやにされている。(性別不明・年代不明)
- ・中国の食品は安くても買わないようにするなど、心がけております。(性別不明・年代不明)
- ・田畑が荒地地となっているのを多く見かける。地産地消をもっと推進して国内産の良さ安全性をアピールして欲しい。(性別不明・年代不明)

食品添加物

- ・三度の食事は仕事の間と私は思っていますが、今はすべての人達が大型店にて防腐剤漬けの食品を買って求めています。カビない物はカワナナすら食べません。これから先が心配です。除草剤や防腐剤等はこれから先大問題になると思います。県はその点を県民に知らせてください。年寄りからのお願い。(女性・70歳以上)
- ・食品添加物の規制をもっと厳しくしてほしい。(男性・20歳代)
- ・おいしい物品を作るためとはいえ化学薬品が多すぎだと思います。(男性・60歳代)
- ・食の安全はとても気にしています。残留農薬、食品添加物は特に気になります。(女性・50歳代)
- ・添加物が入っていないものがよいが、ソーセージなどはあきらめている。(性別不明・年代不明)

農薬

- ・食事のバランスばかり考えていて、食品安全知識に欠けていた。漠然と農薬が怖いと思っていて、残留農薬の数値が食品に書いてあると安心。数字で見たいと思う。(女性・50歳代)

- ・道の駅などの食品は、生産者が農薬などを自主管理しているので、安全性が保たれているのか。そのあたりまで行政が対応できるのか不安である。(男性・60歳代)
- ・旬の物や新鮮な物を購入できるため、積極的に地場産の物を購入している。農薬の制限検査を徹底してほしい。生産者には特にその意識を持ってもらう事と消費者にその情報を知らせてほしい。(女性・50歳代)

放射性物質

- ・赤城山の野生動物の放射能を調べていただきたい。今のままですと獲っても肉が売れないので。(男性・20歳代)
- ・放射性物質に関しては、行政も消費者も、過度な対応をとらず、科学的根拠に基づいた冷静な対応をとるべき。(男性・20歳代)
- ・9月1日のニュースで、まだワカサギが持ち帰れないといっていました。群馬のほかの食材は大丈夫なんでしょうか。隠していませんよね。すごく心配です。怖い。怖い。係りの皆様、お忙しいでしょうが、県民のために努力してください。お願いします。(女性・70歳以上)
- ・群馬県のHPの放射能検査のところはよく丁寧に書かれていて参考になった。ありがとうございます。(性別不明・年代不明)
- ・放射能は何も信じることができず、現在茨城産の野菜、くだもの、魚など何ひとつも購入していないのが現実です。(性別不明・年代不明)
- ・子供の学校給食を今よりも安全にしてもらいたい。高線量地域のデザートや加工品をあえて選択する栄養士の安全意識に不安を感じている。(女性・40歳代)

食品表示

- ・産地を偽装したり、米を日本産ではないのに偽って流通に流すのは国がよく監視してほしい。(女性・70歳以上)
- ・販売者は表示してあるけれど、製造業者は表示していないのが大いにあるので、どこで作っているのか不安。(女性・70歳以上)
- ・朝食はいつもパンなので、トランス脂肪酸の含有量を食品表示に入れてほしい。なぜ記されないのか疑問に思う。(女性・40歳代)
- ・食品表示の規則が複雑すぎて、大衆、事業者も分かっていないし、理解できない。その複雑さが法の遵守の気持ちを無くしている。法は大衆にもよく理解してもらえなければ目的は達せられない。(男性・60歳代)
- ・有害か、有害とまでは行かなくても体に良くない添加物の基準をもう少しわかりやすく表示して頂きたいと思います。(男性・70歳以上)
- ・加工品の材料の産地など知りたい。どのようにつくられているか目に見えないので心配です。(女性・50歳代)

アレルギー・食品回収

- ・現在、子どもがアレルギーを持っていて、保育園ではそのアレルギー食品がある時は、持ち込み食です。公立の保育園なので、できるだけ対応してもらいたいです。(女性・30歳代)
- ・食品の安全確保体制がしっかり構築されていてありがたいと思います。ただ残留農薬に関する食品回収等で科学的根拠からは過剰と思われる回収事例等が見受けられます。食べ残しや食品廃棄の問題も含め世界的には食糧難の状況なのでなるべく無駄のないよう制度改正等要望します。(男性・50歳代)

食育

- ・「食事バランスガイド」などの指針を、例えば3年に1回帯配布するなどの情報提供を希望します。また、消費生活展などの場を利用して、食生活チェックなどの企画をしていただくのもよいのではないのでしょうか。(女性・40歳代)
 - ・少子高齢化が進み、これからは食の大切さが増してくると思うので、食育施策が大切と思われます。また、食育が健康増進、医療費削減にもつながるのではないかと思います。(男性・60歳代)
 - ・食育とは、健康な体を維持するのにとても大切なことであるのは理解していますが、経済的な面でいつもバランスのとれた食生活など不可能な方もいらっしゃると思うのですが。満足に、食費にお金がかけれない場合は、「バランスのとれた栄養を」とはいきません。(女性・60歳代)
 - ・コンビニやファーストフード等で便利になっている反面、食が軽視されるようになったと感じています。最近、ACジャパンのCMでも、食育に関して流されたりしていますが、もっと強く訴えて、食の大切さを見直す社会になるとよいと思っています。(女性・50歳代)
 - ・小さな子どもも安心して食べられるように、値段も高過ぎずにしてもらいたい。学校などで食育してほしい。(女性・30歳代)
 - ・「家族でいただきますの日」初めて知りました。我が家は6人家族なので、毎日うるさく食事もままならぬ日が多く、あと2、3年は難しいようです。心がけてみます。(女性・60歳代)
 - ・「家族でいただきますの日」「食育の日」は、パンフレット等を利用して各家庭へ配布し、拡大を図るべきです。(男性・60歳代)
 - ・食育に関する教育について。我々60歳代が義務教育を受けた昭和30年代は、栄養素、ビタミンなどは度外視で、親も無知でした。これからの教育は、食育が非常に大事だということを、60歳代になりようやく気付きました。(男性・60歳代)
 - ・食育の日があることをもっとアピールした方がよいように思います。知らない人が多くいると思います。(女性・70歳以上)
 - ・主旨から外れてしまいますが、我が家では自営のため、家族で食事の時間がなかなかもてずにおります。それでも遅い夕食でなんとか顔をあわせること位はやっております。(女性・60歳代)
 - ・我が家は二世帯住宅です。老人2人、若夫婦、中学1人、小学1人の6人です。食事は別にとりますが夜のおかずはほとんど一品必ず孫たちに作ります。煮物は好評です。娘の子ども(外孫)はパアチャンの味はママと同じだとも言います。味が娘、孫へとつながっているのはうれしいことです。(女性・70歳以上)
 - ・荒地を利用したい方に貸し出し、自給率を上げてほしい。自分で自然に野菜を作って食べるのが子どもにとっても大切な食育。アンケートの中にひとつも項目がないのが残念でした。(女性・70歳以上)
 - ・近年食育という言葉をよく耳にします。とても大切な事だと認識しています。これから子育てを始める世代の方に伝えていけたらと思っています。地域等イベント等色々な方法で参加できることを望みます。(女性・50歳代)
 - ・子供が通う保育園・幼稚園・託児所などではやはり施設で作っている給食を食べることで子ども達は本当の美味しい食材などを感じることができると 생각합니다。可能な限り子どもには園で作ったお昼を食べさせてあげたいと思います。作っている人を見ることができるとは大事ではと思いました。また「美味しさ」が違いますよね。よろしくお願いします。(女性・50歳代)
 - ・食育は生活をしていく上でとても大切な知識だと思います。地元の農業の活性のためにも地産地消が大切と考えています。新鮮で安く手元にくるといっても消費者にとってもうれしいことです。定期的に地元で朝市など行われればよいと思います。(女性・30歳代)
 - ・孫が3人いますが食育がとても大切だと思います。小中学校での指導がとても良いと思います。親の古い情報で育てるより新しい正しい情報をお願いします。(女性・50歳代)
 - ・子ども達のために食育や安全性の確保がされていってほしいと思います。(女性・20歳代)
- 「食育の日」があることは知っていましたが、毎月19日だとは知りませんでした。我が家では、朝は全員がバラバラの時間に出勤しますので、一緒にはとれません。土曜や日曜の朝と毎日の夕食はいつも一緒に食べています。(性別不明・年代不明)

- ・郷土料理や伝統料理の継承が進んでいない。ふるさとの思い出は食の思い出でもあります。群馬県として残したいメニューをリスト化して普及させてもらいたい。お赤飯ですら若い人達は作らないで買っている。(性別不明・年代不明)
- ・細かいことだが、小学校の給食時にさりげなく栄養素やエネルギーなどの指導を継続する。(性別不明・年代不明)

事業者

- ・以前、某スーパーでてんぶらを買ったらプラスチックの破片が入っていた。店へ電話し、伝えたが、「申し訳ありませんでした」で終わった。そのてんぶらを確認する等の返事はまったくなかった。以来、そのスーパーは「信用なし」と判断し、その店の惣菜は一切買っていない。スタッフの中にはその報告を上まで伝えない適当な者もいる。そういった対策を今後していただきたい。(男性・30歳代)
- ・最近、食品加工工場で人為的な食の安全性を打ち壊す事件があった、食品を扱うすべての人々の自覚をしっかりとっていただきたい。(男性・50歳代)
- ・私の実家は農業を営んでいます。家庭菜園もしています。自分で作った物が一番安心だと思い食卓に出していますが、携わる生産者、製造者すべてのものが安全性を保持する取組をしていただきたいと思っています。(女性・30歳代)
- ・周囲から食材の管理などが悪いと聞くお寿司屋さんが近くにあるので、ちょっと不安です。そういったウワサにも少しは耳を傾けてほしいです。真実かもしれませんから。(性別不明・年代不明)
- ・「食品の適正表示推進事業所」登録事業所が増えてほしいし、もっと目についてほしいです。店頭に並んでいる物を買うだけなので安全が前提です。しかし最近では信用できない感じである。(性別不明・年代不明)

行政・検査・監視・規制

- ・規制化と監視体制の強化。(男性・30歳代)
- ・信用できる管理体制の強化(男性・40歳代)
- ・いわゆる「お役所仕事」でなく、本当に役に立っていただきたいです。食品の安全性について不安の理由は、「都合の悪いことを隠す」という行政のイメージ、「良いものは高い、庶民には届きにくい」。(男性・40歳代)
- ・食品の安全は、法令等により守る以外は考えにくい。営利目的の生産者、販売者は何とかして法の目をかいくぐり、儲けようとするもの。いたちごっこになるが、行政に願ひせざるを得ない。(男性・50歳代)
- ・県民第一と実行してほしいが、たぶん実行しないでしょうし、できないでしょう。(性別不明・70歳以上)
- ・消費者は生産者、製造者、小売業者を信用するしかないの、行政には、より監督・指導の強化をお願いしたいです。(男性・70歳以上)
- ・生きていくためには食事はとても大事であるが、農薬や添加物など、利益優先の考えの下で人工的に作られた毒物(あえて毒とします)を口に入れるしかない現代で、どうやってそれをなるべく摂らずに食事ができるかを考えて実行しようと思います。行政などで良い方向にいけるような法律や監視をしてもらわなければならないと思います。(女性・50歳代)
- ・子どもを育てているので「食」はとても大事だと考えています。しかし口にすることは安全ではないものも多くあると思います。例えば野菜などの「見ため」よりも何より安全なものを消費者や生産者が大事と考えていくとよいと思います。また行政も「安全」を一番に考え監督指導して頂きたいと思っています。(女性・30歳代)
- ・まずは「家庭」が安全性確保や食育について学ぶ教える場であると思う。祖父母両親が子どもと一緒に食事をする時間を取ることが大切ではないか。(女性・60歳代)
- ・この事(食品安全)は人間が生きて行くうえには一番大切な事だと思います。最近食品偽装表示や放射性物質、残留農薬等の事について心配が多々ありますが、店頭で販売しているものはちゃんと検査をしていると思うので安心ですが、街道すじで販売しているものとか

道の駅で販売しているのはどうかと疑問が残ります。これからも食品の安全について規制強化をお願いします。(女性・70歳以上)

- ・国の取組については浮かびやすいが、県の食への取組がすぐに浮かばなかった。国よりも県の規制が厳しいなどはありませんが、群馬県が全国でも有数の食安全県になってくれると嬉しいと思っています。これからも行政からの情報に耳を傾けていきます。(男性・20歳代)
- ・家族の健康状態に目を向け始め、食品の成分に注意していた時このアンケートが届きました。消費者側が知識を豊富に持たなければ安全な食品を手に入れられないような世の中にはなってほしくありません。信頼回復のため、行政と事業者の皆様には今後も力を尽くしていただけるようお願い申し上げます。(女性・40歳代)
- ・食品の安全確保についてやはり行政の方々1人1人が自分の事と考え、危機感を持って対応して頂きたいと思います。(男性・50歳代)
- ・国や市町村ではできないようなことを吟味したうえで実施して頂けるとよいと思います。(男性・20歳代)
- ・消費者の視点に立った時、食品の安全性を確保してほしいので安全基準を保つもしくは厳しくして欲しいと思います。しかし基準を厳しくすると生産者は出荷に大きく制限がかかってしまいます。震災以降兼業農家である私の家も大きな影響を受けました。安全性確保は大変重要ですが、生産者を支援するという視点も忘れないでほしいです。(男性・20歳代)
- ・給食に対し、非常に関心を持っています。次世代の県民の健康のために県は強い指導力をもって臨んでほしい。(女性・50歳代)
- ・県の取組を知らないのでは理解したいと思う。(性別不明・年代不明)
- ・生産者、販売者、消費者がお互いを信頼できる県民性を行政は指導してほしいです。(性別不明・年代不明)
- ・小さい子どもがいますので食の安全に関しては特に力を入れてほしいと思います。販売店への立ち入り検査等の機会を増やしていただき、常に安心、安全な食の提供をしていただける努力をお願いします。(男性・30歳代)

情報

- ・私たち消費者は、生産者から直接食品を買うことはできません。最近、食に関する事件や事故が大変多いので不安はありますが、行政の素早く正しい情報提供は不可欠だと思います。(女性・60歳代)
- ・何よりも消費者に対する分かりやすい情報提供が必要だと思います。知らないことや分からないことが多く、何を基準に選択すればよいのか分からない。(女性・50歳代)
- ・群馬県で家畜し尿が上水に混入した事故があったが、これを知ったのは東京在住の子どもからの通報で、パソコンにより確認した次第です。食に関する事故が発生したら、誰でも遅滞なく容易に事故を知ることができる方法(スーパーの入口に内容を掲示するなど)を行政に検討していただきたい。また、現状と復旧計画、今後の改善方法について知らせてほしい。(男性・70歳以上)
- ・自分は食に携わる仕事をしているので知識も他の人に比べ多い方だと思います。ただ一般消費者の方々の目にふれる情報の少なさはやはり気になります。小売店での啓蒙活動が一番手堅い手法なのではと考えています。意見交換会等では堅苦しい感じ、参加したいとは思えません。(女性・40歳代)
- ・食についていかに無知かが分かったので食に関する情報が得られるような環境づくりをお願いします。(女性・30歳代)
- ・食べるのが好きなので、これからは子ども(家族)のために、食の安全や施策に興味を持ちたいと思いました。それには私のようにあまり知らない人にも分かりやすいように情報提供等をお願いしたいと思います。(女性・30歳代)
- ・TVの活用、広報(女性・20歳代)
- ・食品の安全を気にしているとはいえ、自分でも勉強不足な点が多々ありまとまりのない回答で申し訳ありません。新聞の一部分に毎日少しずつでも特集として載せたら有難いです。(男性・50歳代)

アンケート

- ・アンケート自体で、このようなことに取り組んでいることを意識しました。無意識にメディア等から教育されていると私の場合は思いました。子育て中の家庭が大事、重要だと思います。(女性・60歳代)
 - ・検査結果だけは、嘘偽りなく公表してほしいです。子ども、孫、そのまた次の世代までにも安心・安全をお願いしたい。(女性・30歳代)
 - ・とても答えることが多くて大変でした。難しい問が多く、答えたことが何に使われるのかイメージしにくかったです。もう少し市民が答えやすいアンケートにするとっとよいと思います。(女性・40歳代)
 - ・今まで知らなかったことがこのアンケートで情報を得られました。今まで思っていただけで行動に移せなかった事をこの機会に実践して行いたいと思います。(女性・40歳代)
 - ・関心を持つことがまずは大切かなと思いました。無関心のままでは何も始まらないでもんね。私もこのアンケートをきっかけに知識を深めたいと思うようになりました。(女性・30歳代)
 - ・答えやすいアンケートですが、量があまりにも多過ぎてきちんと最後まで答えられたか不安です。(男性・40歳代)
 - ・アンケートについて。①設問が多すぎる。②主婦や買い物料理に携わっている人であれば回答もできるが私自身は全くしたことがないのでアンケートにこたえるのは不適切。(男性・70歳以上)
 - ・このアンケートが長すぎて読むのが大変。高齢者には難しい。(女性・50歳代)
 - ・アンケートの数が多すぎる。(女性・40歳代)
 - ・もっと簡単なアンケートを。(女性・70歳以上)
 - ・質問が沢山ありすぎと思いました。(性別不明・年代不明)
 - ・私達に安心していただけるものを提供してほしいと思います。この調査は私には難しかったですね。(女性・70歳以上)
 - ・食に対する関心はある方だと思っていましたが、このアンケートを機に一層深くなった気がします。(女性・60歳代)
 - ・日々の食生活には自分なりに気を使っていたつもりでしたが、このアンケートを通して安全性、健康について自分の食生活の大切さを見直し、反省もすることができました。より一層安心して食することができる食品の提供を希望します。行政の方々のご苦勞に感謝いたします。(女性・70歳以上)
 - ・自分で食事を作ったり、購入することはほとんどないのでそれに関しては答えにくかった。(女性・20歳代)
 - ・このアンケート用紙が良い紙だったので、もっと古紙やわら半紙のようなものを使っても良かったのではないのでしょうか。郵送料も重みがあるため高くなりそうです。せっかく行ったアンケートが活用されることを願っています。(女性・20歳代)
 - ・自分が年をとっているのであまり理解できずすみません。(女性・70歳以上)
 - ・色々食品の安全安心や食育に関することが勉強になりました。ありがとうございました。(女性・70歳以上)
 - ・参考になりました。(女性・30歳代)
 - ・役に立てれば光栄です。(男性・50歳代)
 - ・自分の生活、特に食について見直す時間を持つことができました。ありがとうございました。(女性・70歳以上)
 - ・食に関して考える良い機会となりました。ありがとうございました。(女性・40歳代)
 - ・健康寿命と常に考えていますので、これをきっかけに食生活を見直したいと考えています。(女性・60歳代)
 - ・色々勉強になりました。ありがとうございました。(女性・50歳代)
- ## その他
- ・国や行政、生産者、事業者の方達の行いや、食に対しての覚悟を持った実践行動が必要だと思います。私達ひとり一人の意識も大事、知る、学ぶを意識していきたいと思います。(女性・50歳代)
 - ・大泉の事件のような事は絶対に起こさないように(男性・60歳代)
 - ・市販されているすべての食品が安全であることを望みます。(女性・60歳代)

- ・肉は「肉の駅」がありますが、野菜をもっと多く出してもらいたい。魚もスーパーがない（遠い）。買い物が不便。群馬は車がないと交通が不便です。以前は乗っていたけれどだんだん年をとってきて、自転車では限られています。（性別不明・70歳以上）
- ・わかってもなかなか実践できないのが現実です。年をとり、目も悪くなり、字も小さいのでなかなか見づらいのが現状です。注意して購入しているつもりですが。（女性・60歳代）
- ・家で介護をしている者なので、食事が日々少なくなっています。よい介護食の方法を知りたいです。（女性・70歳以上）
- ・日頃他県の人と接する機会が多いが、群馬県の名物、名産といって誇れる食品が少ないので、全国に誇れる食品作りが求められる。（男性・40歳代）
- ・私は特に食について考えて食べていることはありません。目で見て、目で読んで、食品を買っていますが、あまり気にしていません。（女性・60歳代）
- ・私達に安全な物が届くようにお願いいたします。（男性・60歳代）
- ・年に1回または2年に1回、食品衛生の勉強会に参加している。（女性・70歳以上）
- ・まだまだ地場産物の購入場所が少ないように思います。（男性・60歳代）
- ・食事は生きる事の基本なので大事にしたいと思います。健康な食事は人生を楽しくしてくれます。（男性・60歳代）
- ・人間の体も心も食べることによって作られると思っています。何を選んで食べるかということがとても大事だと思います。おいしいものがあふれている世の中なので食べたいものを好きなだけ食べてはだめだと思います。子ども達の食生活、今後の健康が心配です。（女性・40歳代）
- ・自分は高齢なので気にしていないが、孫が来たときは特に安全を気にしております。（女性・70歳以上）
- ・本音と建前ではないが、あまり食品の事について考えていると食べる食品がなくなってしまうと思います。ある程度は食品の事について考えるが最終的には食べてしまいます。（男性・60歳代）
- ・私達70歳以上なので食についての感想はすみませんがあまりありません。（女性・70歳以上）
- ・消費者一人一人がもっと食の安全などに関心を持つべきだと思います。食べたものが身体になると思うので。（女性・40歳代）
- ・食品の安全にみんなで目を光らせて行こう。（女性・20歳代）